

一般社団法人 大分県スポーツ学会 第7回学術大会

10代の コーチングを 考える

大会長 **山田 雅也** (公社)大分県薬剤師会 ドーピング防止委員会 委員長

日時 平成27年 **12月13日** 日 10:00 ~ 17:00

会場 **大分県消費生活・男女共同参画プラザ
(アイネス)2階会議室**

〒870-0037 大分市東春日町1番1号 Ns大分ビル
TEL:097-534-4034

参加費 **会費 1,000円**
(非会員1,500円・学生500円)

●お問合せ先 大分県スポーツ学会第7回学術集会事務局 大分スポーツリハビリテーションセンター 担当:牧
〒870-0165 大分市明野北1-1-11 TEL097-574-5132 FAX097-574-5133 E-mail oitakenspo@yahoo.co.jp

【主 催】一般社団法人 大分県スポーツ学会 理事長 森 照明

【後 援】大分県教育委員会、(公財)大分県体育協会、(一社)大分県医師会、(公社)大分県薬剤師会、(公社)大分県看護協会、(公社)大分県栄養士会、(公社)大分県理学療法士協会、
(公社)大分県作業療法協会、(一社)大鶴歯科医師会、(一社)大分県サッカー協会、大分県スポーツ歯学研究會、大分県障害者スポーツ指導者協議会、
(公社)大分県柔道整復師会、大分スポーツリハビリテーションセンター、(独)国立病院機構 西別府病院、大分県立看護科学大学、大分合同新聞社、
NHK大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送

**一般社団法人
大分県スポーツ学会
第7回学術大会**



ごあいさつ

一般社団法人 大分県スポーツ学会
理事長 森 照明

本日は第7回大分県スポーツ学会にご参加くださいますと誠にありがとうございます。

本学会は平成22年3月に「スポーツに関する知識と技術の研さんを積み、会員相互の情報交換を通じて大分県における健全なる青少年の育成とスポーツの人材育成を図り、県民の体力向上、健康増進、スポーツ文化の醸成に寄与すること」を目的に設立されたスポーツ学会です。医歯薬・看護は勿論、体力、科学、教育、行政や指導者・選手らすべての分野の関係者が楽しく語る会です。

現在まで学術大会のテーマは平成22年第1回「皆で大分県のスポーツを語ろう」、第2回「スポーツを支える人々のネットワーク～大分からの発信～」、第3回「子どものスポーツを考える」、第4回「ユニバーサルスポーツを考える～」、第5回「究極のコンディションを考える－競技力向上からケガの予防まで」、第6回「スポーツは人類を救う！」で開催されました。

今回は大分県薬剤師会ドーピング委員長の山田雅也理事が大会長として「10代のコーチングを考える」をメインテーマとして、特別講演に順天堂大学 山崎一彦准教授「大分から世界へ～ジュニア世代から才能を伸ばすためには～」、教育講演にアンチドーピング機構 浅川伸専務理事「ユースアスリートに対するアンチ・ドーピング教育・啓発活動について」、シンポ「10代のコーチング～現状と課題～」の充実した企画をされました。楽しんで下さい。

また本学会は平成24年3月から大分県看護協会と共催で大分県スポーツ救護ナース・救護員を養成し、スポーツ現場に派遣する事業を実施してきました。現在まで総数457名の救護ナースと156名の救護員を認定しました。県外からの応募者も増えてきています。スポーツ現場への派遣状況は平成25年4月から平成26年10月では総回数822回、派遣延人数816名と充実してきました。国体や4年後の大分県開催のラグビーワールドカップ、オリンピック救護にも参加したい希望者もいます。日本初の制度としてこれからも大きく発展すると考えています。

そしてこのたび県看護協会と話し合いの結果、共催を解き平成28年1月からは本学会の事業として取り組むことに成りました。共に本システムの基礎を築いて下さった看護協会に改めて深謝いたします。本当にありがとうございました。今後とも関係各位のご期待にそえるよう努力したいと考えています。皆様の一層のご協力、ご指導をお願いします。

それでは皆様良いお年をお迎えください。



ごあいさつ

第7回学術大会
大会長 山田 雅也

このたび、大分県スポーツ学会第7回学術大会を平成27年12月13日（日）に大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」2F 会議室において開催することとなりました。我々の学会は、スポーツに関わる全ての方に参加して頂き、自由に意見交換できる場となるという目的をもって活動していることから、今回の学術大会では、アスリート、指導者、父兄、スポーツ愛好者など、スポーツに関わる全ての立場の方が興味を抱いて頂けるよう「10代のコーチングを考える」をテーマとして掲げさせて頂きました。10代という年齢は、競技力向上という視点、スポーツを通しての人間形成という視点、いずれにおいても非常に重要な時期であるとともに、最も難しい年代であるとも言えます。また、昨今の少子化を鑑みると、これまで以上に議論が必要な領域であるとも考えられます。参加される皆様方が、各々の角度から、スポーツに関連した青少年の育成について考察して頂けることを期待しております。

特別講演には、選手として3大会連続オリンピック出場を果たし、指導者としても日本陸上競技連盟強化委員会副委員長、強化育成部長という若手育成のトップランナーとして最前線でご活躍の順天堂大学准教授の山崎一彦先生をお招きし「大分から世界へ～ジュニア世代から才能を伸ばすためには～」というタイトルでご講演頂きます。教育講演では、日本アンチ・ドーピング機構専務理事・事務局長である浅川 伸先生に「ユースアスリートに対するアンチ・ドーピング教育・啓発活動について」というタイトルで、ユース世代へのアンチ・ドーピング教育の重要性や世界のドーピング事情を分かりやすくご解説いただく時間といたしました。また、シンポジウムでは、大分県下で若い世代の育成に当たっている3種目（陸上、空手道、ホッケー）の指導者に加え、行政サイドからもご参加いただき、「10代のコーチング～現状と課題～」というタイトルで一般参加者を含めて、自由な論議を交わしていただくことになっています。

最後に、本学術大会がこれからの大分県のスポーツ界の発展に寄与する有意義な集いとなることを祈念してご挨拶いたします。

第7回学術大会プログラム

大分県スポーツ学会 第7回学術大会 プログラム

午前の部（10：00～12：15）

【開 会】 10：00～

【一般演題発表】（10：10～11：50）

《セッション①》 10：10 ～ 11：00

座長 別府大学 食物栄養科学部

平川 史子

1. 県内スポーツ選手の血液検査データからみる栄養摂取状況

独立行政法人国立病院機構 西別府病院スポーツ医学センター

後藤 美奈

2. 身体組成改善を目的とした栄養マネジメントの一例

公認スポーツ栄養士

吉良 明代

3. 高校生男子陸上選手を対象とした4ヵ月にわたる栄養サポートの効果

別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

五丹 健博

4. 勝利志向性とコーチングをめぐる社会学的研究

－プロ野球界における指導者のスポーツ的社会化論に立脚して－

大分大学大学院

荻田 恵輔

5. 総合型地域スポーツクラブに求められるべき「たまり場」的機能性とは

－フィールドワークから得られた「クラブ」の今日的狀況をもとに－

大分大学大学院

鈴田 夢希

《セッション②》 11：00 ～ 11：50

座長 西別府病院 スポーツ医学センター

保科 早苗

6. 健康寿命、善玉脂肪組織の活性

大分医学技術専門学校

島田 達生

7. 10代アスリートのパフォーマンス低下3大原因とその対策

国立病院機構西別府病院スポーツ医学センター

天田 浩司

8. 大分県薬剤師会ドーピング防止委員会の現状

公益社団法人 大分県薬剤師会

河村 聡志

9. 小学校中学年における短期間のラダートレーニングが走能力へ及ぼす影響

別府大学短期大学部専攻科初等教育専攻

高野誠太郎

10. スポーツ救護システム変更について

社会医療法人 敬和会 大分岡病院

森 照明

【ポスター発表】（11：55～12：15）

1. 若年アスリートにおける月経異常者に対する栄養指導の在り方について

別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

志賀 優美

2. 中学・高校卓球部員における咀嚼機能と食生活習慣・競技力との関連について

別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

堀 優吾

3. 高校生女子ハンドボール選手に対する継続的な栄養サポートとその効果

別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

太田明日香

4. カスタムメイドマウスガード普及の取り組み（第1報）～高校空手道部の場合～

独立行政法人国立病院機構西別府病院歯科 スポーツ医学センター

原 徳美

- | | |
|--|-------|
| 5. 中学校部活動におけるメディカルチェック
西別府病院 リハビリテーション科、西別府病院 スポーツ医学センター | 甲下 修士 |
| 6. 競技関係者のドーピング防止ホットライン利用状況の変化
公益社団法人 大分県薬剤師会 | 松尾 成真 |
| 7. 大分県理学療法士協会が行っているトレーナー活動
大分県理学療法士協会 スポーツ事業部 部長 | 森山 秀一 |
| 8. 子どもたちのケガを防ぐにはーメディカルマネージャー制度ー
(医) 大場整形外科、(一社) 大分県スポーツ学会 | 牧 健一郎 |
| 9. 腰椎疲労骨折 CT 矢状断分類における治癒率と復帰までの期間
(医) 大場整形外科 | 藤野 毅 |
| 10. 当院における取り組みの紹介ーウィメンズヘルス・ロコモについてー
医療法人 大場整形外科、大分スポーツリハビリテーションセンター | 相馬 大樹 |
| 11. 作業療法フェスタ2015ースポーツブースの活動報告ー
(公社) 大分県作業療法協会地域研修部 | 津田 憲吾 |

午後の部 (13:00～17:00)

【教育講演】(13:00～13:40)

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| 座長 (公社) 大分県薬剤師会 ドーピング防止委員会 委員長 | 山田 雅也 |
| テーマ「ユースアスリートに対するアンチ・ドーピング教育・啓発活動について」 | |
| 講師 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構専務理事・事務局長 | 浅川 伸 |

【特別講演】(13:50～14:50)

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 座長 大分雄城台高校教諭 日本陸上競技連盟強化委員会 強化育成部委員 | 宮成 康蔵 |
| テーマ「大分から世界へージュニア世代から才能を伸ばすためにはー」 | |
| 講師 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 准教授 | 山崎 一彦 |
| 同大学陸上競技部 短距離・ハードルコーチ | |
| (公財) 日本陸上競技連盟 強化副委員長 | |
| 2020 東京オリンピックプロジェクトチーム・ディレクター | |

【シンポジウム】(15:00～16:50)

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 座長 理学療法士 日体協公認アスレティックトレーナー | 牧 健一郎 |
| (公社) 大分県薬剤師会 ドーピング防止委員会 委員長 | 山田 雅也 |
| コメンテーター 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構専務理事・事務局長 | 浅川 伸 |
| テーマ「10代のコーチングー現状と課題ー」 | |
| シンポジスト | |
| 大分県空手道連盟 競技力向上委員会 ジュニア強化委員長 | 古梶 琢也 |
| 大分陸上競技協会強化部ヘッドコーチ | 穴井 伸也 |
| 九重町立このえ緑陽中学校 男女ホッケー部顧問 | 岩尾 幸美 |
| 大分県教育庁 体育保健課 競技力向上対策班 指導主事 | 於久 哲也 |

【閉 会】(17:00)

特 別 講 演

「大分から世界へ
～ジュニア世代から才能を伸ばすためには～」

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 准教授
同大学陸上競技部 短距離・ハードルコーチ
(公財) 日本陸上競技連盟 強化副委員長
2020 東京オリンピックプロジェクトチーム・ディレクター

山崎 一彦

やま ざき かず ひこ
山 崎 一 彦

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 准教授
同大学陸上競技部 短距離・ハードルコーチ
(公財) 日本陸上競技連盟 強化副委員長
2020 東京オリンピックプロジェクトチーム・ディレクター



◆略歴◆

- 1971年 埼玉県生まれ
- 1994年 順天堂大学体育学部体育学科卒業
株式会社デサント入社
- 1999年 筑波大学体育研究科修士課程修了
- 2000年 (財) 岐阜県イベント・スポーツ振興事業団「スポーツ科学トレーニングセンター
優秀指導者」として招聘される。(～2003年3月)
- 2008年 英・ラフバラ大学客員研究員 同大学陸上競技部コーチ
- 2009年 福岡大学スポーツ科学部准教授 同大学陸上競技部監督
- 2014年 順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授
順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 准教授

◆指導歴◆

現役時代にプレイングコーチとして400mH 河村英昭(アトランタ、シドニー)、吉澤賢(アテネ)の五輪選手を育成。福岡大学では吉形政衡が400mH で09年世界選手権代表。同種目において日本歴代10傑中5名の指導に携わった。為末大にはメンターコーチとして携わった。

福岡大学の10年間では、日本選手権優勝は女子400mH 櫻井里佳、400m 田中千智、日本インカレでは延べ4名優勝させる。その他アジア大会、ユニバーシアード入賞者を輩出。

14年から順天堂大学スポーツ健康科学部准教授として着任。15年には、世界選手権代表を輩出し、日本インカレではチーム24年ぶりの4×400m リレーでの優勝など早くも指導力を発揮する。

現在は日本陸上競技連盟強化委員会副委員長、強化育成部長を務め、世界ジュニア選手権などの監督を歴任。2020東京オリンピックプロジェクトチーム・ディレクターとして若手育成に尽力している。

◆競技歴◆

身長が低く脚が遅いから世界で戦うのは「無理」という常識を乗り越え、男子400m ハードルにおいてバルセロナ、アトランタ、シドニー五輪3大会連続出場。

1995年の世界陸上競技選手権大会イエテボリ大会400m 障害で日本人初の7位入賞。同年のユニバーシアード福岡大会では短距離種目で日本人初の優勝を果たす。

大分から世界へ -ジュニア世代から才能を伸ばすためには-

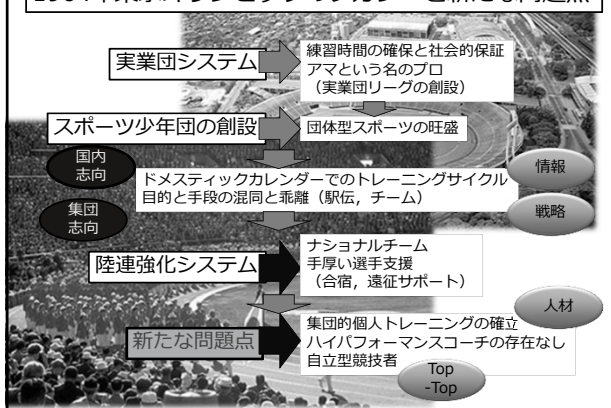
日本陸上競技連盟 2020東京オリンピックプロジェクト
チーム・ディレクター
順天堂大学スポーツ健康科学部
准教授 山崎一彦

JAAF 大島鎌吉氏 選手強化対策本部長（1960年の分析：敗因要因）

- ① アマスポーツの評価が低い
- ② 学校体育が目標と指導力を失っている
- ③ スポーツ指導者、施設が不足している
- ④ 科学研究と現場の結びつきが弱い
- ⑤ 選手養成の一貫性、計画性に欠ける
- ⑥ 青少年層のつかみ方、指導方法が的確でない
- ⑦ 選手の健康管理が不十分
- ⑧ 選手を社会的有能者に導くことが不足している
- ⑨ 選手が非スポーツ的環境の東京に集中している
- ⑩ スポーツの種類が多い
- ⑪ 体協・競技団体の財源がない
- ⑫ 政府のスポーツ政策が十分でない

大島鎌吉の東京オリンピック（2013）

1964年東京オリンピックのレガシーと新たな問題点



2015年のミッション

①タレントトランスファーマップの作成

1. 日本代表選手の競技ヒストリー調査
2. 日本歴代20傑相当選手のSB記録の変遷
3. 世界一流選手の記録分析および育成システム検証
4. 日本一流選手のフィットネス（体力）および技術改善プロセス分析
5. 目標値の作成

②ダイヤモンドアスリート、U23アスリートの認定・育成

1. 陸上競技のブランディング
2. 特化した予算措置
3. タレントマネージャー配置
4. 国際人養成
5. 大学アスリートの支援、強化拠点

陸連合宿の疲弊化

大学生の育成

東京五輪の大多数が学生

③ハイパフォーマンスコーチの養成

1. 選手あがりコーチの質的向上
2. 社会的地位の確保
3. IFとの整合性。スポーツ庁、JSC、JOCより先駆ける

過去には次世代へのヒントが隠されている

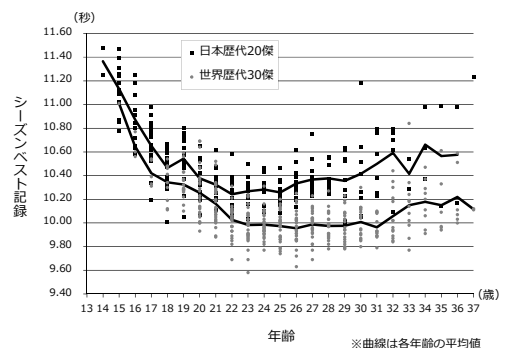
室伏広治の英才教育

為末大の早熟競技者



市橋有里、市川良子の高校時からのエリート教育

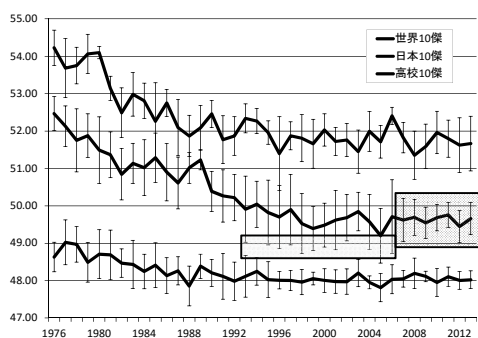
高橋尚子、野口みずきのマンツーマン指導



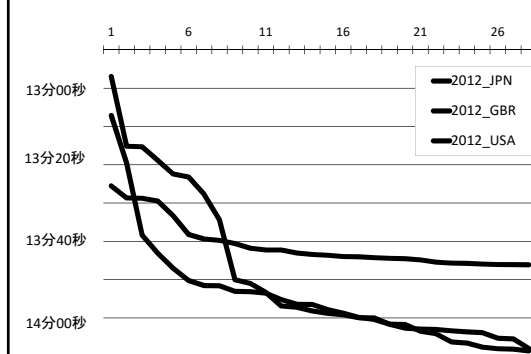
一流男子100m選手のシーズンベスト記録の推移

タレントトランスファーマップ作成リーダー 森丘保典

世界・日本・高校10傑平均の年次推移

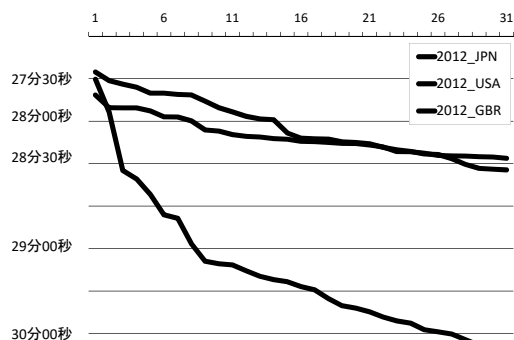


TTMマネージャー・森丘保典



日米英における男子5000mの上位28位までの記録(2012年)

< IAAF Top Lists, USATF, 陸上競技マガジン >



日米英における男子10000mの上位31位までの記録(2012年)

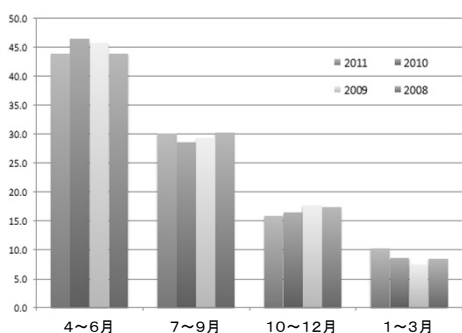
< IAAF Top Lists, USATF, 陸上競技マガジン >

中3	15y	16y	17y	18y	19y	20y
高1	16y	17y	18y	19y	20y	21y
高2	17y	18y	19y	20y	21y	22y
高3	18y	19y	20y	21y	22y	23y
大1	19y	20y	21y	22y	23y	24y
大2	20y	21y	22y	23y	24y	25y
大3	21y	22y	23y	24y	25y	26y
大4	22y	23y	24y	25y	26y	27y
社1	23y	24y	25y	26y	27y	28y
社2	24y	25y	26y	27y	28y	29y
社3	25y	26y	27y	28y	29y	30y
社4	26y	27y	28y	29y	30y	31y

2015 2016 2017 2018 2019 2020

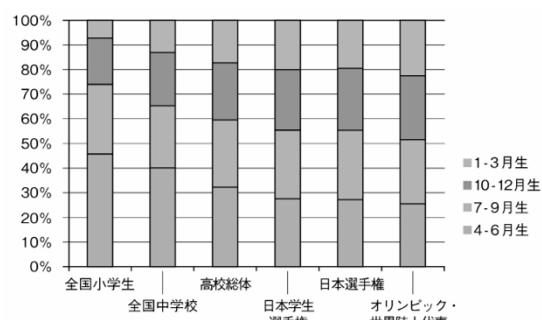
図 各年代における2020年までの年齢

小学生交流大会出場者の生まれ月分布



(日本陸上競技連盟, 2013)

全国大会出場者および代表選手の生まれ月分布



日本陸上競技連盟 (2013)

陸上競技・日本代表選手の軌跡調査

* 1960年以降のオリンピックおよび世界陸上の代表選手にアンケート調査を実施
(社会環境の相違を考慮し、50歳未満の男子67名、女子37名の計104名を分析対象)

小学校期：ほとんどが陸上競技を専門的に行っていない

- ・約9割が運動遊びを「よくした」と回答（男女とも“鬼遊び”が1位）
- ・陸上競技のみ実施していたのは1割未満
- ・全体的に運動有能感が高い

中学校期：約6割が全国大会に出場していない

- ・陸上競技のみ実施していたのは約7割（約2割が別競技または複数実施）
- ・約1割が組織的なスポーツ活動（部活動・クラブ）を行っていない

高校期：約8割が全国大会に出場し6割が入賞している

ユース・ジュニア期を通して…

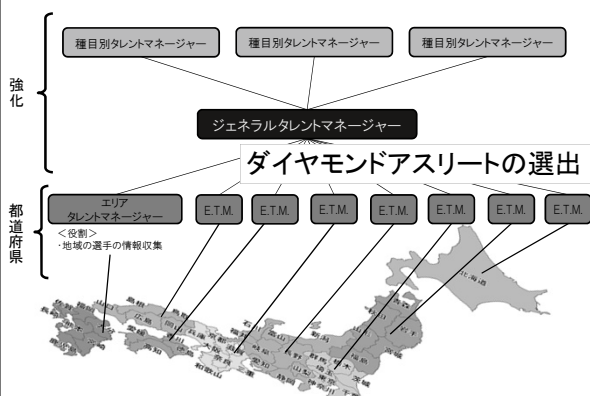
- ・指導者はコーチングの技術、知識、実績があり、かつ親しみがあつた
- ・指導者への満足度は高く、環境に恵まれたと回答する選手が多かった

日本陸上競技連盟（2013）

TTMで明確になってきたこと

- ・高い山を急激に登ると山を降るのも早い？
- ・日本人競技者は2歳ほど早くピークをむかえる？
- ・年齢層の高い時期に、高い峰からスタートすると、さらに高い競技レベルに到達しやすい
- ・トップの平均化
- ・オリンピックのマラソンは若い人が勝ち、ベテランが入賞している
- ・長距離の客観的データに乏しい
- ・海外比較ができていない

JAAF タレントマネージャー設置イメージ



ダイヤモンドアスリート



タレントマネージャー（石塚浩）
地域タレントマネージャー
構成委員（現任23名）

ダイヤモンドアスリートプログラム
国際人養成
外部団体の支援（資金）
プログラムの協働
海外活動支援

陸上競技を通じた
国際人養成

サニブラウン・ハキーム	山下潤
犬塚渉	北川貴理
岩本武	平松裕司
佐久間颯大	池川博史
藤森葉那	高松智美ムセンビ
北口榛花	<2015年10月現在>

競技者の道はどちらでもよい



私はダイヤモンドアスリートには決して選ばれなかったと思う。だけどファイナリストになった。比較されながら、アスファルトの地面を突き破って花を咲かせることもできる。

山崎一彦

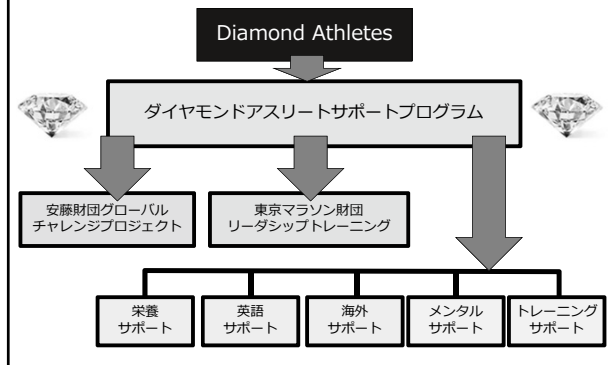
普及から次の段階へ



2020東京オリンピックプロジェクトの今後

レガシーの創出	戦略の基盤となるタレントトランスファーマップの完成
強化育成の ロールモデル構築	特別個人強化と一般強化の棲み分け 強化拠点づくりとサポート体制の充実検討 ダイヤモンドアスリートサポートプログラム
陸上競技の投資	ハイパフォーマンスコーチの養成
陸上競技の ブランディング	特化した活動を行うためのヒトの投入、資金の支援協力

日本陸連 ダイヤモンドアスリートサポートシステム



強化と育成の留意点



[illegible]

教 育 講 演

「ユースアスリートに対する
アンチ・ドーピング教育・啓発活動について」

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
専務理事・事務局長

浅川 伸

あさ かわ しん
浅 川 伸

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
専務理事・事務局長



◆略歴◆

- 1969年(昭和44年) 群馬県生れ
- 1994年(平成6年) 筑波大学体育専門学群卒業
- 2003年(平成15年) (財)日本アンチ・ドーピング機構事務局就職
- 2005年(平成17年) 筑波大学大学院体育研究科入学
- 2007年(平成19年) 筑波大学大学院体育研究科卒業
(財)日本アンチ・ドーピング機構事務局長就任
- 2011年(平成23年) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構専務理事就任
現在に至る

◆アンチ・ドーピング活動歴◆

- 2004年 ・アテネオリンピック
世界アンチ・ドーピング機構アウトリーチプログラムメンバー
- 2005年 ・世界アンチ・ドーピング機構主催教育シンポジウムパネリスト
(於 マカオ)
・UNESCO スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約起草グループメンバー
- 2006年 ・世界アンチ・ドーピング機構主催教育シンポジウムパネリスト
(於 クアラルンプール、マレーシア)
・第15回アジア競技大会 International Doping Control Team メンバー
(於 ドーハ、カタール)
・Association of National Anti-Doping Organizations (ANADO) 常任理事就任
- 2007年 ・世界アンチ・ドーピング機構独立監視プログラムメンバー
(於 Panamerican Games in Rio de Janeiro)
- 2013年 ・Institute of National Anti-Doping Organizations (iNADO) 理事就任

◆役職◆

- 2005年～現在 公益財団法人日本オリンピック委員会アンチ・ドーピング委員会委員
- 2012年～現在 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構理事
- 2012年～現在 一般財団法人嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター理事
- 2013年～現在 Institute of National Anti-Doping Organizations (iNADO) 理事

JABA

ユースアスリートに対する アンチ・ドーピング教育・啓発活動について ～活動の意義と役割～

第7回大分県スポーツ学会学術大会

2015年12月13日
(公財)日本アンチ・ドーピング機構
専務理事 浅川 伸

P.T. 00000000000000000000

JABA

本日の内容

1. スポーツの社会的位置づけの変化
2. オリンピック・パラリンピック大会のリスク管理
3. アンチ・ドーピング活動の意義と役割

P.T. 00000000000000000000

JABA

2020年に向けての道のり

2015年世界規程・日本規程 / 国際基準改定

↓

スポーツ庁設置

↓

2016年オリンピック・パラリンピック@リオ

↓

2017年冬季アジア札幌大会 (札幌、帯広)

↓

2018年オリンピック・パラリンピック 冬季大会@平昌

↓

2019年Rugby World Cup (日本各地)

↓

2020年オリンピック・パラリンピック@東京

P.T. 00000000000000000000

RUGBY WORLD CUP 2015 ENGLAND

london 2012

P.T. 00000000000000000000

JABA

スポーツ基本計画 第1章 1.(1)

我が国の社会の現状と目指すべき社会像

(中略)我が国の社会が将来も持続的な発展を遂げるためには、人々が深い絆で結ばれた地域社会が健在であり続け、そこでは、次代を担う青少年が、他者との協同や公正さと規律を学びながら健康に育つとともに、人々が健康に長寿を享受できる社会を実現することが必要であると考えられる。

さらには、国民が自国に誇りを持つことができ、我が国が国際的にも信頼され、尊敬される国であることを目指すべきである。そして、そのような社会を目指すに当たっては、スポーツには大きな貢献が期待される。

これは、被災地でのスポーツによる被災者や避難者を元気づける取組からも分かるように、スポーツは、状況や社会を変える大きな力を持つものであるからである。

P.T. 00000000000000000000

JABA

スポーツ基本計画 第1章 1.(3)

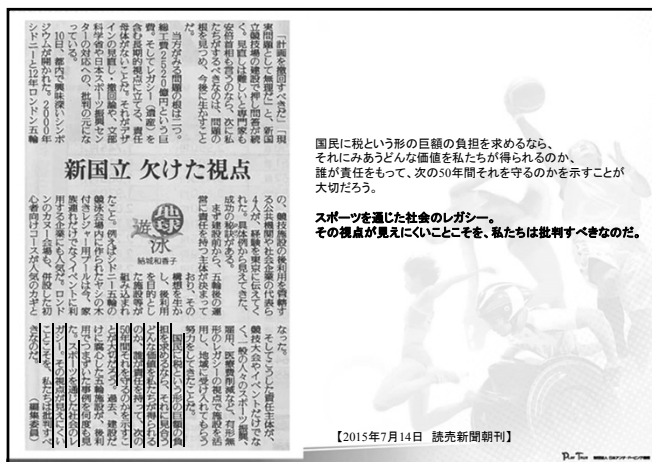
スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出

- ① 青少年が健全に育ち、他者との協同や公正さと規律を重んじる社会
- ② 健康で活力に満ちた長寿社会
- ③ 地域の人々の主体的な協働により、深い絆で結ばれた一体感や活力がある地域社会
- ④ 国民が自国に誇りを持ち、経済的に発展し、活力ある社会
- ⑤ 平和と友好に貢献し、国際的に信頼され、尊敬される国

こうした社会を目指す過程において、またその実現により、スポーツの意義や価値が広く国民に共有され、より多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち合いに支え合う

「新たなスポーツ文化」の確立を目指していく必要がある。

P.T. 00000000000000000000



スポーツの社会的位置づけの変化
スポーツの社会的役割の変化

↓

スポーツの価値、インテグリティ
(誠実、高潔、品位、完全性)を守る
活動の重要性の向上

“Integrity of Sport”

- integrity【名】
 - ー誠実、正直、高潔、品位
 - ー完全(な状態)、完全性、全体性

2010 Vancouver冬季五輪

組織委員会による「大会の成功」を阻害する要因
についてのリスク評価(Risk Register)

1位: セキュリティ(テロ対策)
2位: 天候(降雪不足等)
3位: ドーピング

1988年ソウル五輪の記憶は？

との問いに、真っ先に思い出すシーンはどんなものですか？



ロンドン五輪の成功が
「破壊」された

THE TIMES

the guardian

London Olympics were sabotaged by Russia's doping report says

London Olympics were 'sabotaged' by Russians

Roll of fat around the waist doubles risk of an early death

The Telegraph

VIDEOS + GAMES + LEARNING

VIDEO: SPORTS - OTHER SPORTS - ATHLETICS

Vida report: Medalists who lied London 2012 Games

Telegraph Sport looks at five athletes who were medals at London 2012. Google's Star report saying they should never have been allowed to compete

london

Sabotage
【他動】

- ～に破壊工作を行う
- ～に妨害工作を行う

【名】

- サボタージュ、妨害〔破壊〕工作
- 経営者や戦時中の敵に損害を与えるために、工場などの建物や施設を故意に破壊すること。
- 妨害行為

Taint
【他動】

- ～を汚す、汚染する
- ～を損なう、傷つける、悪化させる
- ～を感染させる
- ～を染める

【名】

- 痕跡
- 汚染、汚れ、汚点
- 病毒
- 汚名

ドーピングによる信頼・評価の失墜リスク

たった1名のドーピング違反が、世界中の人々の記憶の上書きをしてしまう。
「ドーピングの〇〇大会」という印象が後代に渡り記憶される。

大会主催者として、「大会の成功」を考える時、アスリートに公平な競技環境を提供すること、その輝きが失われることが無いように努めることが大会ホストとしての役割。

また、国内的視点から「大会の成功」を考える時、ホスト国からドーピング違反が発生することは、絶対に避けなければならない。

(VANOC Anti-Doping Operations Manager)

ラグビーワールドカップが、
オリンピック・パラリンピックが、
スポーツが持つ多様な価値と機能が、
社会を変えていくこと、

そして、
社会とスポーツに対して
「ドーピング」が与えるインパクトについて、
これまでとは異なる視点で、
あらためて考えていただきたい。

スポーツにおける脅威

●ドーピング	●ハラスメント
●八百長、不正賭博	●ガバナンスの欠如

【オリンピックアジェンダ2020】
全40項目（提言）のうち、以下の「7項目」において、スポーツのインテグリティ（誠実、高潔、品位、完全性）に関連する提言がなされている。

- 提言15 クリーンなアスリートを守るためにフィロソフィーを変える。
- 提言16 クリーンなアスリートの保護基金の拠出。
- 提言17 クリーンなアスリートを讃える。
- 提言22 オリンピックの価値に基づいた教育を広げる。
- 提言27 グッドガバナンスの基本的原則を遵守する。
- 提言31 コンプライアンスを確保する。
- 提言32 倫理を強化する。

日本アンチ・ドーピング規程序論

日本には、スポーツにおける倫理原則の美徳及び価値について、長い歴史がある。「プレイ・トゥーラー」の精神は、日本のスポーツの創設者である嘉納治五郎先生によっても宣言されている。

嘉納先生は、「順道制勝」という言葉を提唱した。「順道制勝」とは、
「勝つにしても道に順って勝ち、負けるにしても道に順って負けなければならない。負けても道に順って負ければ、道に背いて勝ったより価値がある」ということを意味する。

嘉納先生が強調したように、スポーツの価値に基づく教育は、アンチ・ドーピング・プログラムの中核的部分である。

アンチ・ドーピングの取り組み及び活動は、人々がいかにしてスポーツを通して社会的価値を拡大したいと考えているかを示すものである。

また、日本のスポーツ・コミュニティが、将来の世代のために、いかにしてスポーツを保護し発展させたいと考えているかを示すものである。

平成23(2011)年に創立100周年を迎えた日本体育協会と日本オリンピック委員会は、同年7月に行った記念式典の席上において『スポーツ宣言日本～二十一世紀におけるスポーツの使命～』を発表しました。

この宣言は、100年にわたり日本のスポーツが積み重ねてきた歩みをもとに、次の100年をどのような考え方に立ちどこへ向かって進んでいくべきかの指針を示すものです。

日本体育協会、日本オリンピック委員会Webサイトより引用

JABA

一歩踏み出すための「スポーツ宣言日本」

日本体育協会ウェブサイトからの引用
http://www.japan-sports.or.jp/about/tabid/999/Default.aspx

なぜスポーツを一生懸命やるのか。**わかりやすく単純に言えば、楽しいからです。**
それをひとつのカルチャーにしていこうためには、楽しみが社会的価値の実現につながって
いなければならない。そしてその結び目は、スポーツ界の人自身が作っていくべきです。
その可能性はもともと持っている。フェアなプレイというのは、公正というものが原点にあ
ります。こういうものがスポーツというフィールドから他の世界へ広がっていくことで、
スポーツの内在的価値がある種の普遍性を持って外の世界へつながっていく。
それを表現した時に、スポーツって素晴らしいという評価が得られていくと思います。
アメリカではオリンピックに選ばれた選手にすぐアスリート教育をするのですが、その時、
メディアに應對する際には2つのことに気をつけて発言しなさいというそうです。
ひとつは、「あなたの発言することはあなたの将来に大きな影響を与える」、もうひとつは
「あなたの発言がアメリカでのこの競技全体に大きな影響を与える」ということです。
自分を大事にするし、自分が育ってきたスポーツも大事にする。
この2つの思いがあれば、間違った発言はしない。アスリートとは、スポーツの価値が社
会的に認められるためのもっとも重要な窓口です。これを大事にしていきたいと思
います。
スポーツ宣言の意義や理念は言葉にすると難しいものですが、これを幼い子どもたちにも
理解してもらえるよう浸透を図っていくことが、大きな仕事だろうと思います。
(佐伯 年時雄氏 発言部分より引用)

Photo: Taro

JABA

アンチ・ドーピング活動とは、

- 公正・公平な環境で競技をするというアスリートの基本的な権利を担保する活動
- スポーツのインテグリティ、固有の価値・チカラ、本来の姿を守り、向上させるための活動
- 大会の成功の前提となる、社会的評価に対する予防措置
- アスリートがスポーツの価値について考え、自らメッセージを発信するための「気付き」を与える活動

Photo: Taro

PLAY TRUE

BE the REAL CHAMPION!

JABA Japan Anti-Doping Agency

MEMO

Handwriting practice lines consisting of 24 horizontal dashed lines.

シンポジウム

「10代のコーチング～現状と課題～」

座 長

理学療法士 日体協公認アスレティックトレーナー
(公社) 大分県薬剤師会 ドーピング防止委員会 委員長

牧 健一郎
山田 雅也

コメンテーター

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構専務理事・事務局長

浅川 伸

シンポジスト

大分県空手道連盟 競技力向上委員会 ジュニア強化委員長

古梶 琢也

大分陸上競技協会強化部ヘッドコーチ

穴井 伸也

九重町立ここのえ緑陽中学校 男女ホッケー部顧問

岩尾 幸美

大分県教育庁 体育保健課 競技力向上対策班 指導主事

於久 哲也

こ かし たく や 古 梶 琢 也

大分県空手道連盟 競技力向上委員会
ジュニア強化委員長



最終学歴

平成14年3月 日本体育大学体育学部卒業

職歴

平成15年4月 大分県立耶馬溪高等学校 講師
平成16年4月 大分県立中津南高等学校 講師
平成17年4月 中津市消防本部に勤務現在に至る

主な戦績

平成15年1月 オープン・ド・パリ空手道選手権大会 3位
平成19年4月 全日本空手道連盟ナショナルチーム選出
平成19年10月 秋田国体 空手道競技団体組手の部 優勝
平成20年10月 大分国体 空手道競技団体組手の部 優勝

空手道競技の特性とそのサポートについて

大分県空手道連盟 競技力向上委員会 ジュニア強化委員長 古梶琢也

現在、世界各国の空手道愛好者は6000万人を超えています。先日決定された、2020年東京オリンピックで開催都市として国際オリンピック委員会（IOC）に提案する追加競技に空手道が挙がっていることは、私たち空手道関係者にとって、大変喜ばしい知らせでありました。

私が10代の選手の指導に関わり始めたのは今から13年前のことです。大学を卒業し、地元大分県中津市で、自身の道場の後輩たちや勤務先高校の生徒の指導にあたり始めたのがスタートでした。2008年チャレンジ大分国体到大分県代表選手として出場するまで、私自身選手生活に邁進していた時期は、大分県選手団の一員として共に稽古に励む10代選手の悩みや葛藤を身近に感じる時期でもありました。現在では大分県選抜選手の強化スタッフとして、中学生を中心としたジュニア強化に携わらせていただいております、今後全国で活躍できる選手の育成を目指しています。

大分県空手道連盟では、平成15年に「医科学委員会」という組織を立ち上げました。発足に関わった先生方の熱意は、当時選手であった私にも存分に伝わってきましたし、「選手のために」と寄り添ってくださる先生方の姿は、大変印象深いものでした。以降、合宿でのメディカルチェックや九州ブロック大会・国体への帯同など、医科学委員会の先生方には、常にきめ細やかに大分県代表選手のサポートに尽力いただいております。中でも、大分国体に本県代表として出場した女子選手（当時高校1年生）は、医科学委員会スタッフからのメンタルトレーニング・コンディショニング・栄養指導といった多角的・総合的なサポートにより、大舞台での活躍を果たすことができました。その後現在に至るまで、大きな故障なく成年選手として、国内だけでなく海外にまで活躍の舞台を広げる選手として成長しています。

オリンピック競技の一つとして承認いただく日が近いと感じている今、たとえ体格に恵まれずとも強度な練習に耐えられ、障害が出ないトレーニングを目指し、選手自身の内なる可能性を引き出す医科学的視点からのアドバイスを受けることのできる環境は、選手のベストパフォーマンスを引き出すために大変有効であると考えます。

あな い しん や 穴 井 伸 也

大分陸上競技協会強化部ヘッドコーチ
大分雄城台高等学校陸上競技部顧問



学歴

平成16年3月 早稲田大学人間科学部スポーツ科学科卒業

職歴

平成20年4月～平成26年3月 大分県立杵築高等学校勤務
平成26年4月～大分県立大分雄城台高等学校に勤務 現在に至る
大分陸上競技協会強化部ヘッドコーチ
大分陸上競技協会国体強化短距離ブロック長

主な競技実績

全日本中学陸上競技選手権大会100m 優勝
全国高等学校総合体育大会陸上競技対校選手権大会100m 2位
全日本学生対校陸上競技選手権大会4×100mR 優勝（日本学生記録樹立）
日本選手権リレー大会4×100mR 優勝
関東学生陸上競技対校選手権大会200m 6位
自己記録100m10秒46 200m21秒14

主な指導実績

木村 賢太	千葉・山口国体少年男子 A400m	2位
	日本ユース陸上競技選手権400m	2位
	日本ジュニア陸上競技選手権200m	2位
宮川 優子	山口国体少年女子共通800m	6位
足立紗矢香	世界ジュニア陸上競技選手権	出場
	山梨インターハイ100m	5位
	日本ジュニア陸上競技選手権100m	8位
	長崎国体少年女子 A100m	8位
兒玉 彩希	和歌山インターハイ400mH	5位
	全国選抜陸上競技大会300mH	優勝
	和歌山国体少年女子 A400mH	優勝
	日本ジュニア陸上競技選手権400mH	優勝
杉山 孟示	長崎国体少年男子 B110mH	7位
	日本ユース陸上競技選手権400mH	2位
兒玉 芽生	日本ユース陸上競技選手権100m	3位
	日本ユース陸上競技選手権200m	2位

10代のコーチング ～現状と課題～ 「トップアスリートの育成を目指して」

大分陸上競技協会強化部ヘッドコーチ 穴井伸也

今年の9月下旬から和歌山県で開催された第70回国民体育大会で大分雄城台高校3年生の兒玉彩希選手が少年女子 A400mH で優勝することができました。兒玉選手は、小学校時代から将来を有望視された選手でしたが、高校に入学後は環境の変化や故障により、思うような競技生活を送ることができていませんでした。平成25年度末の人事異動により、杵築高校から大分雄城台高校に転勤したことをきっかけに兒玉選手と出会い、復活をかけた取り組みをスタートすることになりました。冬に右足中指を骨折した影響により満足な練習ができておらず、4月の記録会で400mH が66秒という記録からスタートしたことを鮮明に覚えています。そのような選手が、どのような過程を辿り全国で優勝することができたのか、指導者としての私がどのようなことに留意しながらコーチングをしてきたのかを紹介させていただきます。

兒玉選手の指導に携わり最初にしたことは、競技者として純粋で真面目な選手であることです。人間として競技者として、勿論、大切なことではありますが、時としてこの特性が競技者として記録を向上させていく過程で、マイナス要因になることがあります。全国大会で再び決勝の舞台で戦える選手になるには、技術指導より精神面の指導を優先することが必要であると感じました。

具体的に指導者としては、2つの大きな柱を設定しました。①「選手の成長速度に考えを合わせる」②「萎んだ自信を取り戻す作業を行う」の2本です。兒玉選手は、純粋で真面目な選手であるがゆえに、繊細で神経質な側面があり内向的です。練習内容や大会の反省等でも、指導者の発言に納得はしますが、意見をしたり自分を客観的に判断をして現状を受け入れたりすることが苦手な選手でした。陸上競技は、招集からスタートするまでの約30分間、一人で過ごさなくてはなりません。その際に、過度の緊張や不安要素を処理する自己解決能力がなければ、パフォーマンスを発揮することはできません。このようなことを克服するには、「teach」ではなく「coach」のスタンスで指導し、「私がどうにかしてあげる」のではなく「選手本人が何を感じるか、どう考えるか」ということを主眼に置いた指導方針を選択したというわけです。

今回のシンポジウムでは、様々な角度からこの発表を捉えていただき、2020年の東京オリンピックに大分から出場者を出す一助となれば幸いです。指導者としては、キャリアも乏しく未熟な私ではありますが、忌憚のないご意見をお願い致します。

いわ お さち み
岩 尾 幸 美

九重町立ここのえ緑陽中学校 男女ホッケー部顧問
保健体育教諭
1976年 大分県生まれ



学 歴

天理大学体育学部体育学科健康学専攻修了

職 歴

医療法人豊山会 老人保健施設ケアポート溪和

大分県立森高等学校 非常勤講師

玖珠町立北山田中学校

玖珠町立玖珠中学校

九重町立野上中学校

九重町立ここのえ緑陽中学校

主な競技歴（ホッケー女子）

2004年 アテネオリンピック 8位

2008年 北京オリンピック 10位

2012年 ロンドンオリンピック 9位

レポート 「10代のコーチング 現状と課題」

ここのえ緑陽中学校 岩尾幸美

1. ホッケーについて

(1) 世界のホッケー

ホッケーの歴史は古代エジプトにまでさかのぼる。紀元前2500年頃ナイル川流域で発見された墓の壁画にホッケーをしている姿が描かれている。オリンピック史上にホッケーが登場したのは1908年第4回ロンドン大会である。以降、1924年に国際ホッケー連盟が正式にパリで組織され、ヨーロッパを中心に目覚ましい発展を遂げた。

(2) 日本のホッケー

1906年（明治39年）英国人ウィリアム・T・グレー牧師が慶應義塾に教えた日をもって日本ホッケーの正式な始まりとしている。1923年大日本ホッケー協会創立（大正12年）その後、東京オリンピックを契機に組織の基盤を作り1980年（昭和55年）社団法人日本ホッケー協会となる。現在は公益財団法人日本ホッケー協会として活動を進めている。

最近の日本ホッケー界のビックニュースといえば、今年10月末日、女子ホッケー日本代表チームが4回連続オリンピック出場権獲得を決めたことである。男子のオリンピック出場については、メキシコ大会から47年間遠のいている。女子ホッケー飛躍の裏側には、男子に先駆け1998年に日本リーグ（Fリーグ）がスタートしたことが大きく影響している。2005年からは国内最高レベルの大会として男女共に新生ホッケー日本リーグが始まった。

関係者の地道な努力により、国内ホッケーの環境も整い、人工芝フィールドも徐々に増えてきている。それに伴い、各年代層のチームも増加してきた。ただ、2010年に行われた調査で日本ホッケー協会の登録競技者数は10,540人と他の競技と比べても、この数値は格段に低い状況である。五輪種目や国民体育大会の正式種目として実施されているホッケーであるが、裾野が広がっていないところが永年の課題である。

(3) 小・中学生のホッケー事情

小学生のホッケー競技者は主に「スポーツ少年団」に所属し、休日に活動している。小学生年代以下の少年団を中心とした登録チームは全国で89チーム、中学生年代は部活動を中心として123チームである。他の競技と比較すると、ホッケーの登録チーム数が明らかに少ないことがわかる。

ホッケーは1mほどあるスティックを使用し、ボールは野球ボールほどの大きさで硬球より硬く、ボールスピードは160km以上にもなるため、用具の危険性が高い競技といえる。体力面では選手間の接触プレーや振り上げたスティックが当たるなど、小学生がホッケーを実施するには危険性が伴う。さらには、競技人口が少ないため遠征や大会参加に費用がかかるなどの要因から保護者も含めて、青少年への普及が滞っているように思う。ただ、神経系の発達が著しい時期にホッケー競技を行うことは、身のこなしを覚えるために有効な競技であると捉えており、科学的な実証を元にホッケー競技を普及させていくのも1つの手ではないかと考える。

中学生も小学生と同様の課題はあるが、中学生のホッケー競技者の大部分は小学生でホッケー競技を経験した選手であり、危険性については、ある程度経験値でカバーできる。ただ、中学生期には自ら部活動を選択できるため、小学生期からの運動歴が大きく左右するであろう。これまでに経験したことがない競技を始めるのは保護者を含め、子どもにもハードルが高く、運動歴のない子どもがホッケー競技を選ぶ可能性はかなり低いと推測できる。女子についてはさらにその影響が大きい。人口の少ない県の市町村では毎年、女子の部員確保に苦慮しているようだ。県内唯一のホッケー部を有する玖珠美山高校（旧：玖珠農業高等学校と森高等学校が統合）の女子ホッケー部は部員不足が深刻な問題となっている。

ホッケー競技は競技人口の裾野が広がらない限り、メジャースポーツへの仲間入りは難しいと考える。

2. 中学校教諭の立場から

（1）10代のコーチングについて

さまざまな課題を受けて、幼少～中学生期にかけていかに多くの運動歴を積むかが重要である。子どもたちは辛くきつい運動歴では長続きしないため、「わかる」「できる」「楽しい」運動歴の要素が必要であろう。子どもが「競技が楽しい」と思えることが運動歴を増やすために何よりも大切である。さらに、子どもの年齢が幼いほど、保護者との関係も密になるため、「かかわる」「成長する」要素も大切だ。競技を通して、たくさんの人々とのかわり、成長していく子どもの姿を見れば、保護者一緒に運動歴へ引き込むことができると考える。そこで、私たち指導者は、日々の指導の中で「子どもたちを成長させる」実績を積み重ねていかなければならないであろう。

（2）価値観の共有

価値観が多様化する現代社会で、何に価値を見いだすのかが人生を大きく左右すると考える。そこで幼少～中学生期にかけては「将来、豊かな生活を送るための健康な心身の発育・発達」に向けての地盤づくりが必要である。そのことを指導にかかわる大人がしっかり認識をし、コーチングにあたらなければならない。

子どもたちと指導者、指導者と保護者、子どもたちと保護者、指導者と指導者など、競技にかかわるすべての人が同じ価値観を持ってかわり合うことで、コーチングの成果や結果は増大するであろう。勝利至上主義だけでは運動からバーンアウトしてしまう子どもたちを作ってしまう。競技を通して何に価値観を見だし、どんな力をつけていくのか。子どもたちと指導者が価値観を共有していける関係づくりの構築が必要ではないだろうか。そこで、私たち指導者は、日々求めるべき価値観を示さなければならないであろう。

（3）モチベーション（夢や目標）の提示

ホッケー競技の好条件を提示するなら、女子ホッケー日本代表チームはすでにリオデジャネイロオリンピックの出場権を有しており、その先の2020年東京オリンピックの出場権をも獲得しているようなものだ。自国でオリンピックが開催されることなど、一生に一度あるかないかのビッグイベントである。子どもたちが「もしかすると、オリンピックに出場できるかもしれない」と思えるように（1）（2）（3）と系統的なコーチングをしていき、競技を通して、豊かなスポーツライフを作ってほしいと願っている。

お 於 久 哲 也

大分県教育庁 体育保健課 競技力向上対策班
指導主事



学 歴

平成5年3月 日本体育大学体育学部卒

職 歴

平成5年4月～平成7年3月	県立高校非常勤講師（保健体育）
平成7年4月～平成11年3月	大分南高校勤務
平成11年4月～平成21年3月	高田高校勤務
平成21年4月～平成23年3月	野津高校勤務
平成23年4月～現在	大分県教育庁体育保健課勤務

指導経歴

柔道競技

平成18年	大阪インターハイ出場（男子60kg級）
平成19年	佐賀インターハイ出場（男子60kg級、女子48kg級） 秋田国体少年男子（5名中3名）出場
平成20年	九州大会2位・埼玉インターハイ出場（男子90kg級）
平成21年	九州大会2位・奈良インターハイ出場（男子60kg級）
平成22年	全国高校選手権大会・沖縄インターハイ・全日本ジュニア出場 （すべて男子81kg級）

現在の担当業務

国民体育大会に向けた選抜選手強化等を担当（10競技）
チーム大分ジュニアアスリート発掘事業 など

－大分県におけるジュニア選手の強化事業について－

大分県教育庁 体育保健課 競技力向上対策班 指導主事 於久 哲也

大分県のジュニア選手強化は、平成3年に「ジュニア選手育成事業」が開始され、大分国体に向け、変遷してきました。平成20年に開催された大分国体では、これらの事業で計画的に強化された少年選手たちが活躍し、チーム大分は天皇杯、皇后杯を獲得しました。その後の新潟国体、千葉国体でも10位台の上位に位置したことから、ジュニアの育成・強化の必要性は高く、大分国体以降も「未来のアスリート発掘・育成事業」として継続され、個人競技を中心に23競技で実施してきました。しかし、ジュニアの育成・強化はすべての競技団体の共通課題という考え方から本年度より各競技団体にジュニアから成年選手に至る一貫指導体制の構築を促し、本県選抜選手の強化事業である「チーム大分強化事業」の一環として「小中高一貫指導体制」の実施を推進しています。

毎年、チーム大分は国民体育大会において「天皇杯順位10位台」を目標としています。しかし、大分国体に向けて強化された少年選手が抜けた山口国体では23位となり、岐阜国体で19位と目標を達成したものの、東京国体、長崎国体、そして和歌山国体では3年連続で20位台という結果に終わっています。今後、安定的に10位台を目指すためにはジュニア選手の強化に向けて新たな取り組みも必要な時期となっています。そこで、今年度から新規事業として「チーム大分ジュニアアスリート発掘事業」を開始しました。本シンポジウムでは、タレント発掘の現状と本事業の概要を中心にジュニア強化に向けた戦略を提示させていただきます。

1. タレント発掘事業について

タレント発掘事業のコンセプトは「見つけ」「育て」「生かす」がキーワードとなっています。各県対象年齢や実施期間は違いますが、①体力測定等による「選考」、②選考された子供たちに向けた「育成プログラム」を実施、③プログラム修了後は競技団体へパスウェイし、トップアスリートを目指す。という流れとなっています。また実施形式としては①より多くの競技を体験して適性に合った競技を選択する「種目選択型」、②各地域の得意とする競技に特化して数競技のアスリートを育成する「種目特化型」、③現在行っているスポーツから個々の特性に応じて最適な競技に移行する「種目最適型」の3つの型で実施されています。全国では平成16年に福岡県が開始し、和歌山、岩手、東京など全国で約30の都道府県が実施しています。

2. チーム大分ジュニアアスリート発掘事業

本県のタレント発掘は、対象年齢を小学6年生と中学1年生に設定し、「種目特化及び種目最適型」で実施します。設定競技としては、①中学校に部活がなく触れる機会が少ない競技、②高校から本格的に競技を開始し、トップアスリートの成長が期待できる競技、などから6競技を設定しました。本年度は3回の選考会の後に30名のジュニア選手を選出し、来年度の育成プログラムによって「アスリートのたまご」の育成を目指します。

一般演題

演題 1 県内女子スポーツ選手の血液検査データからみる栄養摂取状況
氏名 後藤 美奈¹⁾
所属 ¹⁾ 独立行政法人国立病院機構 西別府病院スポーツ医学センター
²⁾ 別府大学食物栄養科学部
共同演者 松田 貴雄¹⁾、天田 浩司¹⁾、保科 早苗¹⁾、川述 優¹⁾、
平川 史子²⁾



【目的】

当院では2014年より文部科学省『女性アスリートの育成・支援プロジェクト』の「女性アスリートの戦力的強化に向けた調査研究」を受託している。育成年代の女子スポーツ選手について血液検査を行い、成長に応じた栄養支援の時期や内容を検討する。

【対象および方法】

平成26年9月から平成27年10月の期間、県内の女子スポーツ選手(中学3年生から高校3年生)135名(15.5 ± 1.0歳)の血液検査を実施した。合わせて成長状況を把握するため月経状況や小学1年生からの成長記録を確認した。

【結果・考察】

競技種目は陸上、サッカー、バスケットボールなどの20種目。すでに加療中の選手21名を除いた114名のうち鉄欠乏性貧血の頻度は20.2% (23名)、潜在性鉄欠乏は44.7% (51名)であった。競技別に平均と標準偏差を出し比較したが種目別に特徴は見られなかった。血液検査データにおいても一般女性集団における正常値と比較して、遊離テストステロン高値、血中亜鉛濃度低値が認められた。鉄欠乏状態が示唆されるフェリチン低値が多くみられ同時に栄養状態を示すコリンエステラーゼの低下が目立ち、食事摂取量の低さが伺い知れた。

演題 2 身体組成改善を目的とした栄養マネジメントの一例

氏 名 吉良 明代

所 属 公認スポーツ栄養士



I. はじめに

スポーツ科学の分野では、体重を脂肪組織と脂肪以外の組織（除脂肪組織：以下 LBM）の2つに大別する考え方が用いられている。筋肉量や脂肪量は競技成績に影響を及ぼし、競技によって体脂肪は負荷となり不利に働く。

II. 目的

体脂肪を減少させ身体組成を改善することで競技力を向上させる。

III. 方法

高校生男子サッカー選手（LBM58.14kg、体脂肪10.26kg）に対し3ヶ月の栄養マネジメントを実施。身体計測、生活・食傾向・コンディションに関するアセスメントを基に栄養計画を立て、栄養教育と食事指導を行なった。

IV. 結果

3ヶ月経過後、LBM58.63kg（+0.49kg）、体脂肪9.46kg（-0.8kg）であった。コンディション調査や実施後のアンケートにおいて主観的評価に改善がみられた。

V. 考察

選手の嗜好による食事の偏りや補食の選択などが体脂肪過多の要因となっていると考えられ、さらに体重増加を懸念し自己判断で主食の摂取量を少なくしていたことがコンディションに悪影響を及ぼしている可能性もあった。

栄養計画により食事の偏りを補正し、加えて栄養教育とともに食事指導を行うことで、選手は目的意識をもって食事を摂るようになり自己管理能力を身につけることができた。これにより適切な栄養摂取を日常生活に同化させ、体脂肪を減少させるとともに競技における主観的評価も向上するという結果を得られたと考える。

演題 3 高校男子陸上選手を対象とした4ヵ月にわたる 栄養サポートの効果
氏名 五丹 建博
所属 別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科
共同演者 平川 史子



【目的】

本研究では、陸上部に所属する選手に対して食事状況、食生活状況、血液性状を把握し、4ヵ月間にわたり栄養サポートの効果を検討した。

【方法】

大分市内N高校陸上部員男子14名を対象に初回(H26.10月)と4ヵ月後(H27.2月)に身体状況調査、栄養素等摂取状況調査、血液検査(貧血指標)を行った。栄養指導は集団指導をH26.10月、12月、H27.2月の計3回行った。

【結果】

初回の栄養素等摂取状況はエネルギー $2,535 \pm 378.2$ kcal、たんぱく質 92.6 ± 16.5 g、鉄 8.9 ± 2.2 mgで4ヵ月後はエネルギー $2,230 \pm 364.3$ kcal、たんぱく質 81.5 ± 15.1 g、鉄 9.3 ± 5.0 mgであった。初回の朝食の栄養素等摂取状況は、エネルギー 754.9 ± 255.8 cal、たんぱく質 22.5 ± 8.1 g、鉄 2.6 ± 1.2 mgで4ヵ月後はエネルギー 520 ± 165.6 kcal、たんぱく質 16.3 ± 6.9 g、鉄 1.9 ± 1.2 mgであった。初回の血液検査結果は血清Hb値 14.4 ± 0.7 g/dl、血清鉄 71.4 ± 29.7 μg/dl、血清フェリチン 42.6 ± 26.5 ng/ml、ハプトグロビン値 35.1 ± 25.4 mg/dlで4ヵ月後は血清Hb値 14.0 ± 1.0 g/dl、血清鉄 76.7 ± 29.5 μg/dl、血清フェリチン 37.9 ± 18.0 ng/ml、ハプトグロビン値 39.9 ± 21.9 mg/dlであった。初回の鉄欠乏状態は正常8名、前潜在性鉄欠乏1名、潜在性貧血1名、トランスフェリン飽和度のみ低値4名で、4ヵ月後は正常10名、トランスフェリン飽和度のみ低値3名、トランスフェリン飽和度とHb低値の者が1名であった。4ヵ月後の血清フェリチンと朝食たんぱく質摂取量($p=0.026$)と炭水化物摂取量($p=0.018$)に正の相関がみられた。

【考察】

本調査では、生徒の食事摂取内容を把握し食事が貧血予防などに大きく関係することについて栄養指導を行った。その結果4ヵ月後には鉄の摂取量が増加し、血液検査結果で血清鉄・ハプトグロビン値は増加した。また朝食たんぱく質摂取量、炭水化物摂取量と血清フェリチンに正の相関がみられた。朝食を毎日しっかり摂取しているものは貧血指標も良好であり、今後の栄養指導にも生かしたいと考える。しかし4ヵ月後は、エネルギー、たんぱく質の摂取量が低下していた。特に朝食摂取量が少なくなっていた。調査時期が初回は大会前で4ヵ月後は大会後であった。初回は大会前のためコンディション維持などへの意識が高く、食事摂取量が多くなっていたと推測される。前潜在性鉄欠乏状態、潜在性鉄欠乏状態の者が4ヵ月後には正常に変化しており、鉄欠乏状態は改善傾向にあると考えられる。しかしハプトグロビンが初回、4ヵ月後ともに基準以下の者がおり、スポーツ貧血を起こしていると推測される。時期による練習量の変化や1週間の血清鉄の変化について検討をしていく必要がある。今後の課題として、体作りのための食事の知識は習得したが、実際の食行動に反映するまでには至らなかったため、今後は定期的かつ継続的な栄養サポートを実施し、食習慣の大切さを伝えることが重要である。

【謝辞】

本研究は大分県スポーツ振興基金事業の助成を受けて行いました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

演題 4 勝利志向性とコーチングをめぐる社会学的研究

ープロ野球界における指導者のスポーツ的社会化論に立脚してー

氏 名 荻田 恵輔¹⁾

所 属 ¹⁾ 大分大学大学院 ²⁾ 大分大学

共同演者 谷口 勇一²⁾



今日、スポーツ界をめぐる「勝利至上主義」が蔓延していることは周知の事実であり、これまで数多くの批判的検討（研究）が蓄積されてきた。勝利至上主義を取り扱った先行研究の大部分は、教育的観点に立脚しつつ、「勝利志向性」をも批判・否定してきた。勝利志向性は、勝敗を決するというスポーツの純然たる本質であり、それを軽視したスポーツ活動は、競技者ならびに指導者の有益性を十分に保障することにはならないはずである。むしろ、勝利志向性から有益な教育的指導が捻出されはしないのか。本研究の主眼はそこに置かれている。

以上の問題関心に鑑み、本報告では勝利志向性を最も尊ぶプロスポーツ（野球）界に着目し、勝利志向性に潜む教育的意味の解明を試みたい。具体的には、名将と呼ばれた元西鉄ライオンズ監督である三原脩氏から継承された、いわば、「コーチング内容の伝承」を、後継者数名（中西太氏ほか）に対する聴き取り調査から明らかにし、その内面に迫る。「勝敗を決する」ことにこそ“楽しさ”を見出すスポーツの文化的特性に鑑みたとし、全てのプレーヤーが排斥されることのないコーチングは、如何にして可能となるのか。社会学的検討を施す。

演題 5 総合型地域スポーツクラブに求められるべき「たまり場」的機能性とは ーフィールドワークから得られた「クラブ」の今日的状況をもとにー

氏 名 鈴田 夢希¹⁾

所 属 ¹⁾ 大分大学大学院 ²⁾ 大分大学

共同演者 谷口 勇一²⁾



地域住民のスポーツへの積極的参与、さらには、スポーツを通じた地域コミュニティの再編、といった今日的課題の克服を期待され、総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）は育成されてきた。全国に約3300の総合型クラブが存在するとされているが、はたして、総合型クラブはスポーツ界の構造を変革しうるのか。

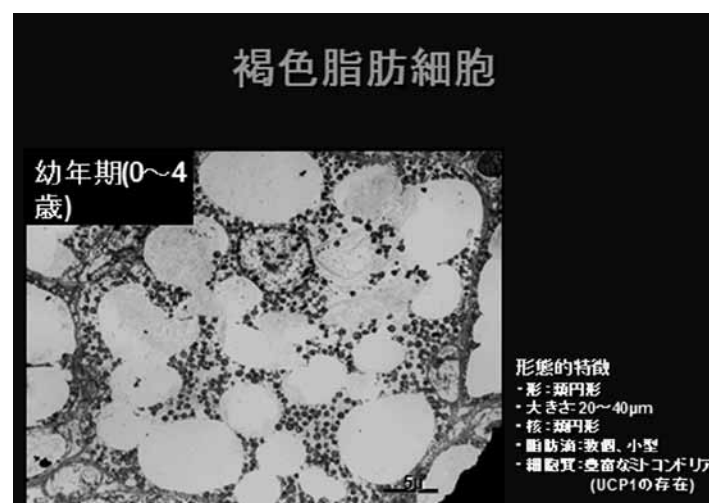
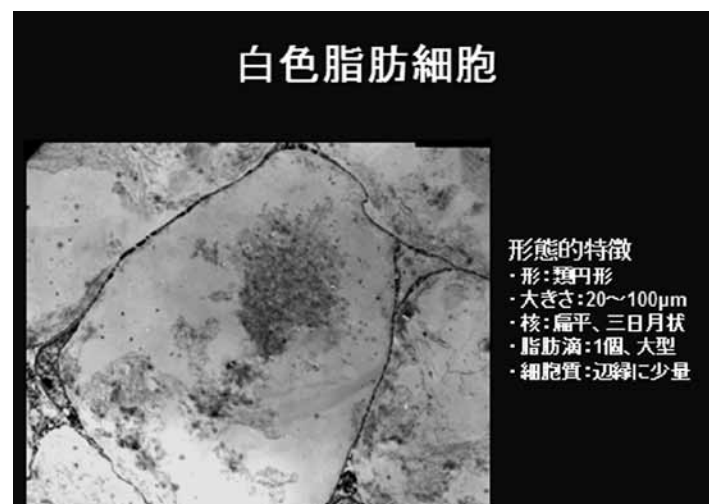
総合型をはじめとした「クラブ」の起源は、「パブ」（日本風にいえば、居酒屋あたりか）にあるとされ（荒井，2003）誰もが気軽に集い、語り合い、時として社会（体制）批判の巣窟とさえなり得る、民衆決起の＜場＞としての機能性を有してきた。今日の総合型クラブは、住民のスポーツ機会を保障する機能性に期待が寄せられている。しかしながら、「クラブ」と名乗る以上、そこには、コミュニティ（社会）創造の契機としての＜場＞の機能性が求められよう。社会学者平林氏（1986）の言を借用すれば、「たまり場」的機能性を付与した総合型クラブ育成にこそ見出すべき方向がありはしないだろうか。

本報告では、大分県内をフィールドワークする中で見出された総合型クラブを取りまく「たまり場」的機能の現況及び可能性について社会学的検討を試みたい。

演 題 6 健康寿命、善玉脂肪組織の活性
氏 名 島田 達生
所 属 大分医学技術専門学校



一般に脂肪組織といえば、白色脂肪組織（white adipose tissue, WAT）をさし、単一の大型脂肪滴をもつ白色脂肪細胞の集団からなる。WAT は皮下組織をはじめ、内臓諸器官や血管周囲に分布し、クッション、保温、栄養分の貯蔵という重要な役割を果たしている。しかし、余剰な脂肪組織は、皮下のみならず筋組織、内臓諸器官に集積し、運動障害や生活習慣病の引き金になる。一方、褐色脂肪組織（brown adipose tissue, BAT）は、小型脂肪滴とミトコンドリアを持つ褐色脂肪細胞の集まりである。BAT は、肩甲骨間の皮下に分布し、熱産生に関与し生後1年で消失するといわれている。今回、電子顕微鏡を使って、WAT と BAT の微細構造を明らかにするとともに、両者の発達・消長と機能的意義を考察する。



演題 7 10代アスリートのパフォーマンス低下3大原因とその対策

氏名 天田 浩司

所属 国立病院機構西別府病院スポーツ医学センター

共同演者 松田 貴雄、保科 早苗、後藤 美奈



【はじめに】

当センターには外傷など整形外科的疾患ではなく、原因不明のパフォーマンスの低下を訴え、10代アスリートが受診する。

【目的】

パフォーマンスの低下を訴えるアスリートに対し、検査を行い、原因の解明と対処法について検討すること。

【方法】

当院では、血液検査、心肺運動負荷試験、自律神経機能検査、簡易心理テスト POMS、必要に応じ喘息誘発運動負荷試験を実施している。

（症例1）17歳、男、サッカー。試合の終盤になると動悸がして眼の前が真っ白になり倒れそうになったことがあった。最高酸素摂取量は48.5ml/kg/分（基準値の132%）で心肺機能は優れていたが、血液検査ではフェリチン値7.2ng/mlと著明な低下を示し、鉄欠乏性貧血と診断された。栄養指導と鉄剤の投与を行った。

（症例2）17歳、女、水泳。毎日5000m以上泳いでいるが、泳ぎ終わってから、ヒューヒューというような息苦しさがある。肺機能検査は正常だった。当センターを受診、喘息誘発運動負荷試験を実施した。運動負荷後20分で1秒量が650ml（22%）低下し、運動誘発喘息と診断した。喘息の吸入薬が処方された。

（症例3）12歳、男、陸上競技。最近大会での順位が落ち、疲労感が強い。最高酸素摂取量は54.3ml/kg/分（基準値の140%）で優れていたが、有酸素運動レベルは低下していた。さらに有酸素運動時の副交感神経活性が低下していた。POMSでは「緊張-不安」、「疲労」項目の点数が高かった。オーバートレーニング症候群と診断され、結果を指導者に伝えた。

【まとめ】

パフォーマンスの低下を訴えるアスリートに対して、検査を行った結果、①貧血 ②運動誘発喘息 ③オーバートレーニング症候群が3大原因と考えられた。これら原因をつかみ、適切に対処することが必要である。

演題 8 大分県薬剤師会ドーピング防止委員会の現状

氏名 河村 聡志

所属 公益社団法人 大分県薬剤師会

共同演者 山田 雅也、中島 美紀、松尾 成真、伊東 弘樹、安東 哲也



【目的】

大分県薬剤師会ドーピング防止委員会（以下、当委員会）は2008年の第63回国民体育大会に合わせて特別委員会として組織され、大分県薬剤師会の公益社団法人移行時に常設委員会となった。大分国体終了後もスポーツ関連団体と協力しながらドーピング防止活動を行っている。今回は、当委員会活動を報告する。

【方法】

4名で活動しており、委員会は年3回開催している。以下に活動内容を示す。

＜ドーピング防止に関する問い合わせ対応＞ 薬事情報室、委員勤務先、個人電話にて受付

＜国体選手に対するドーピング防止活動＞ 服用薬剤、サプリメントのチェック、ドーピング防止講習会

＜会員支援＞ 薬剤師向けドーピング防止講義

＜スポーツ関係団体との連携＞ 大分県体育協会、大分県スポーツ学会

＜研修会参加＞

【経過と考察】

大分国体終了後7年が経過したが、大分県体育協会と連携し、国体関連業務を実施しており、「うっかりドーピング」防止活動は継続できている。医科学委員、メディカルスタッフとして参加できている競技団体もある。

薬剤師の日常業務とは異なるスポーツ界におけるドーピング防止活動推進は容易ではない。ドーピング検査実施競技会の地方都市開催が極めて少ない現状も、影響を与えている。

演題 9 小学校中学年における短期間のラダートレーニングが走能力へ及ぼす影響

氏名 高野 誠太郎¹⁾

所属 ¹⁾ 別府大学短期大学部専攻科初等教育専攻

²⁾ 別府大学短期大学部 ³⁾ 別府市立大平山小学校

共同演者 中山 正剛²⁾、荒金 和彦³⁾



スポーツ現場では、敏捷性を必要とするスポーツを中心にSAQトレーニングが注目され、導入が進んでいる。このトレーニングは、脳からの命令が神経を介し筋に伝わるまでの伝達速度をあげる、いわば神経系のトレーニングと位置づけられている（SAQ協会，1999）。そこで本研究では、小学校中学年を対象に、SAQトレーニングの1つであるラダートレーニングを授業介入として行うことで、走能力に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。別府市の小学校第4学年116名の児童を対象とし、ラダートレーニングと走フォームの指導を行う群（フォームラダー群）と走フォームの指導のみ行う群（フォーム群）とに分けた。調査項目は、「走動作，50m走タイム，10m区間ごとのラップタイム」とし、調査方法は、ビデオカメラとiPadを用いた。ラダートレーニングの介入効果を分析するために、時間（preとpost）と群（フォームラダー群とフォーム群）の対応のある二元配置の分散分析を行った。その結果、50m走タイムと0～10m区間タイム、走動作のいくつかの項目に交互作用が認められた。このことから小学校中学年へのラダートレーニングの介入による走能力の向上が示唆された。

演 題 10 スポーツ救護システム変更について
氏 名 森 照明
所 属 社会医療法人 敬和会 大分岡病院
共同演者 栗秋 良子、佐藤 浩二



【 目的 】

一般社団法人大分県スポーツ学会は大分県看護協会と共催で「スポーツ救護ナース」の育成に取り組み4年目を迎えた。その育成・派遣システムやスポーツ現場救護の状況など、関係者から高い評価を得てきた。今回システムの変更があり報告する。

【 方法 】

平成24年4月に制度が発足し、スポーツ救護に関するすべての理論と実技が実践できる3日間15時間の育成プログラムを作成してきた。スポーツ現場への派遣要請は看護協会が受け、認定ナースには登録されたメルマガを通じて連絡し、希望者を現場に派遣してきた。今回大分県看護協会との話し合いにより、派遣システムは学会が平成28年1月から直接行う事になった。学会HPからメルマガ登録し、登録者には要請があった都度、発信していく手順である。

【 結果 】

現在まで総数457名の救護ナースと156名の救護員を認定した。平成25年4月から平成26年10月までの派遣総回数822回、派遣延人数816名である。なかでも中学校関連の依頼は337件であり、行政を通じて、学校関係からの依頼が多いのがわかる。

【 考察 】

この育成システムは日本初の制度であり、現在県外からの問い合わせ、申し込みも増えている。今後ともスポーツ救護ナースの需要は増えると予測しており、本システムはスポーツ界にも貢献し、さらに看護師の業務としても、夢と展望のある新しい分野ではないかと考えている。

共催をしていただいた県看護協会に深謝いたします。

ポスター発表

※ポスター発表（誌上発表）の顔写真掲載に関しましては
希望された方のみとなっております。

演 題 1 若年アスリートにおける月経異常者に対する栄養指導の在り方について
氏 名 志賀 優美
所 属 別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科
共同演者 平川 史子



【目的】

本研究では、中学女子卓球選手を対象に月経が身体状況や栄養素等摂取状況、貧血指標との関連を検討し三主徴の一つ無月経に対応する栄養指導のあり方を見出すことを目的として行った。

【方法】

2006年から2015年までで別府市内 M 中高校卓球部員に所属しており、過去10年間で中1年時から中3年時までの継続的なデータのある女子(21名)を対象とし身体計測・血液検査(貧血指標)・食事調査(3日間摂取食事記録法)・月経調査を行った。初潮が発来していない者を無月経群、規則的な月経周期の者を規則群、発来しても不規則な者を不規則群と3群に分け比較検討した。

【結果】

体脂肪率では、中3年時無月経群 $22.1 \pm 4.2\%$ 、規則群 $25.1 \pm 2.8\%$ 、不規則群 $23.1 \pm 3.1\%$ であった。栄養素等摂取状況は、エネルギーは中3年時無月経群 $2351 \pm 508\text{kcal}$ 、規則群 $2436 \pm 479\text{kcal}$ 、不規則群 $2190 \pm 505\text{kcal}$ であった。脂質は中3年時無月経群 $70.7 \pm 25.1\text{g}$ 、規則群 $76.6 \pm 23.3\text{g}$ 、不規則群 $65.3 \pm 24.9\text{g}$ 、鉄摂取量は、中3年時無月経群 $9.2 \pm 1.2\text{mg}$ 、規則群 $8.5 \pm 3.0\text{mg}$ 、不規則群 $6.8 \pm 1.9\text{mg}$ であった。血清鉄は中2年時無月経群 $89.1 \pm 18.8\text{ }\mu\text{g/dl}$ 、規則群 $104.5 \pm 50.1\text{ }\mu\text{g/dl}$ 、不規則群 $140.0 \pm 32.8\text{ }\mu\text{g/dl}$ であり、3群間で有意差が見られた($P < 0.05$)。フェリチンに関しては、中2年時無月経群 $22.5 \pm 10.8\text{ ng/ml}$ 、規則群 $10.9 \pm 2.9\text{ ng/ml}$ 、不規則群 $22.4 \pm 8.9\text{ ng/ml}$ であった。

【考察】

今回の結果では、体脂肪率は中1、中2、中3のいずれかの時期も3群間に有意差が見られなかった。これまで体脂肪の減少によるやせが無月経の主因と考えられてきたが、必ずしもやせのみられないアスリートでも無月経を生じることが分かった。栄養素等摂取状況から見ると中1年時は、3群間に摂取量の差はなかったが、中2・中3年時になると規則群に比べて無月経群、不規則群にエネルギー、脂質、炭水化物の摂取量が低値を示した。エネルギーや脂質、炭水化物も体を作り上げていく上で欠かすことの出来ない栄養素であるため積極的な摂取を今後促していかなければならない。今回の調査対象の中で無月経群、不規則群にカルシウム、鉄などの不足も見られた。貧血指標である血清鉄では無月経群が中1年時～中3年時とも他の2群に比べ低値を示し、フェリチンは規則群が他の2群とも低値を示した。その要因として規則群は毎月の月経で失われた鉄を補うため貯蔵鉄も利用されていると考えられる。このことから月経の有無に関わらずどの群においても日々の食事から意識して鉄を摂取する必要があると考えられる。今回の結果、定期的な月経を迎えるためにまずは利用可能なエネルギー量を確実に増やすことが最も重要であり、予防として位置づけられると思われる。そして、選手の「食」に対する更なる意識づけはもちろんのことその女性アスリートに関わるスポーツ指導者にも女性アスリートの三主徴は起こしてしまった時にはすでに遅く、予防が大事であることの十分な理解を広げていくべきだと考える。

演題 2 中学・高校卓球部員における咀嚼機能と食生活習慣・競技力との関連について

氏名 堀 優吾

所属 別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

共同演者 平川 史子



【目的】

近年、スポーツ選手における咀嚼は運動能力に強く関与し競技力向上のためにも重要であると言われてきた。そこで、中学、高校で卓球部に所属する男女の選手に対して身体状況、栄養素等摂取状況、体力と共に咀嚼機能に関する測定を行い、それぞれの関連について明らかにして競技力向上に役立てることを目的とした。

【方法】

別府市内M中高校卓球部員、合計36名（男子17名、女子19名）を対象に調査を行った。調査内容は、身体状況調査、栄養素等摂取状況調査、血液検査、体力測定。また、咀嚼力測定ガムを2分間噛ませ、咀嚼前後のガムの色調の変化を測定、咀嚼前後のガム重量の差から溶出糖量を測定した。その他、咀嚼に関するアンケート（咀嚼アンケート）も行った。溶出糖量が平均値以上の者を溶出糖量上位群（上位群）、平均値以下を溶出糖量下位群（下位群）として比較検討をした。

【結果】

男子の年齢は上位群 15.3 ± 1.1 歳、下位群 12.7 ± 1.0 歳（ p 値 < 0.01 ）、女子では上位群 14.6 ± 2.2 歳、下位群 14.2 ± 1.6 となった。ガム咀嚼後の色調の変化において男子は上位群 4.3 ± 0.3 、下位群 3.7 ± 0.5 （ p 値 < 0.05 ）、女子では上位群 4.2 ± 0.3 、下位群 3.7 ± 0.4 （ p 値 < 0.01 ）であり、男女どちらも上位群が下位群よりも有意に高値を示した。身長は上位群 164.6 ± 9.3 cm、下位群 152.6 ± 8.0 cm（ p 値 < 0.05 ）、体重は上位群 59.4 ± 16.4 kg、下位群 40.8 ± 8.2 kg（ p 値 < 0.05 ）、BMI は上位群 21.5 ± 4.1 、下位群 17.4 ± 2.0 （ p 値 < 0.01 ）、スティフネスは上位群 120.6 ± 13.9 、下位群 102.9 ± 10.0 （ p 値 < 0.05 ）、若年比較は上位群 115.9 ± 13.4 、下位群 98.7 ± 9.6 （ p 値 < 0.05 ）で上位群が下位群より有意に高値を示した。

女子では体脂肪率が上位群 $21.4 \pm 4.6\%$ 、下位群 $25.8 \pm 4.1\%$ （ p 値 < 0.05 ）であり、また、腹囲は上位群が 64.0 ± 3.8 cm、下位群 69.2 ± 4.6 cm（ p 値 < 0.05 ）になり、下位群が上位群より有意に高値を示した。体力測定からは男子では反復横飛びが上位群 63.8 ± 4.0 回、下位群 58.0 ± 1.9 回（ p 値 < 0.01 ）で有意に上位群が高かった。

【考察】

本研究では、咀嚼能力と食生活習慣、競技力との関連を検討した。ガムの色調は、上位群は下位群に比べて色調の変化が強く、上位群は十分に咀嚼が行えていると考えた。上位群は体組成において全身の筋肉量、骨の強度が高値になる傾向にあった。また、体力測定の結果から咀嚼能力は競技力に影響を及ぼす可能性があると考ええる。運動時に力を込める際、又は集中する際には奥歯を噛みしめる。スポーツを行う上で咀嚼能力は大きく関与していると思われる。しかし、食習慣、特に咀嚼習慣は環境による影響が大きく、思春期を迎えるまでに誤った咀嚼習慣を獲得すると改善が難しい。思春期のスポーツ選手に対する食育を行う際には栄養面においての知識を伝えるだけでなく、正しい咀嚼習慣の獲得の重要性も考慮すべきだと考える。

演題 3 高校生女子ハンドボール選手に対する継続的な栄養サポートとその効果
氏名 太田 明日香
所属 別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科
共同演者 平川 史子



【目的】

思春期後半にある高校生は、第二性徴が完備し、身体的に成熟に達するまでの期間でもあるので、この時期には栄養素を成人以上に摂取する必要がある。また女子スポーツ選手においては、誤った食知識や過剰な体重管理、日々の激しい練習などによるストレス等は、摂食障害や月経異常を発症するケースもあり、また故障にもつながる可能性がある。

【方法】

平成25年10月～平成27年4月までに大分市内J高校ハンドボール部に所属している女子部員14名を対象とした。栄養サポートを継続的に6回受けている者を高Ⅲ群（4名）、4回受けている者を高Ⅱ群（5名）、新規で受けたものを高Ⅰ群（5名）とした。また、調査時期をH25.①、H25.②、H26.①、H26.②、H27.①、H27.②の6区分に分けた。調査内容は身体測定、生活・食習慣調査、月経状況、故障歴、3日間の摂取食事調査秤量法を行い、栄養指導は各年度2回ずつ行い継続的な栄養サポートの効果を検討した。

【結果】

高Ⅲ群、高Ⅱ群の経時的変化をそれぞれの初回とH27.②（最終）を比較すると高Ⅲ群の体重 $56.4 \pm 4.7\text{kg} \rightarrow 60.5 \pm 3.1\text{kg}$ 、体脂肪率 $27.1 \pm 6.9\% \rightarrow 29.5 \pm 5.3\%$ 、骨格筋量 $38.4 \pm 1.1\text{kg} \rightarrow 39.8 \pm 1.3\text{kg}$ 、エネルギー摂取量 $2004 \pm 271\text{kcal} \rightarrow 2332 \pm 165\text{kcal}$ 、体重当りのたんぱく質量（Pg/体重kg）が $1.5 \pm 0.5\text{g/kg} \rightarrow 1.5 \pm 0.3\text{g/kg}$ であった。高Ⅱ群は体重 $56.9 \pm 5.7\text{kg} \rightarrow 57.5 \pm 5.4\text{kg}$ 、体脂肪率 $27.9 \pm 4.6\% \rightarrow 27.3 \pm 4.9\%$ 、骨格筋量 $37.1 \pm 2.9\text{kg} \rightarrow 39.1 \pm 1.8\text{kg}$ 、エネルギー摂取量が $2048 \pm 199\text{kcal} \rightarrow 2899 \pm 805\text{kcal}$ 、Pg/体重kg $1.4 \pm 0.2\text{g/kg} \rightarrow 1.8 \pm 0.4\text{g/kg}$ であった。高Ⅲ群の故障箇所は足首100% $\rightarrow$ 25%、膝75% $\rightarrow$ 50%、大腿部75% $\rightarrow$ 25%であった。高Ⅱ群は腰20% $\rightarrow$ 0%、膝20% $\rightarrow$ 0%、足首0% $\rightarrow$ 40%であった。高Ⅰ群が入学したH27.②は、体重で高Ⅲ $60.5 \pm 3.1\text{kg}$ 、高Ⅱ群 $57.5 \pm 5.4\text{kg}$ 、高Ⅰ群 $57.0 \pm 6.8\text{kg}$ 。体脂肪率は高Ⅲ群 $29.5 \pm 5.63\%$ 、高Ⅱ群 $27.3 \pm 4.9\%$ 、高Ⅰ群 $28.9 \pm 4.7\%$ であった。骨格筋量は高Ⅲ群 $39.8 \pm 1.3\text{kg}$ 、高Ⅱ群 $39.1 \pm 1.8\text{kg}$ 、高Ⅰ群 $37.9 \pm 2.6\text{kg}$ であった。エネルギー摂取量は高Ⅲ群 $2332.4 \pm 165.6\text{kcal}$ 、高Ⅱ群 $2899.3 \pm 805.9\text{kcal}$ 、高Ⅰ群 $2330.9 \pm 705.6\text{kcal}$ であった。Pg/体重kgは高Ⅲ群 $1.5 \pm 0.3\text{g/kg}$ 、高Ⅱ群 $1.8 \pm 0.5\text{g/kg}$ 、高Ⅰ群 $1.5 \pm 0.6\text{g/kg}$ であった。Caは高Ⅲ群 $539.8 \pm 40.5\text{mg}$ 、高Ⅱ群 $568.6 \pm 139.7\text{mg}$ 、高Ⅰ群 $422.3 \pm 208.4\text{mg}$ であった。鉄は高Ⅲ群 $7.8 \pm 1.9\text{mg}$ 、高Ⅱ群 $9.1 \pm 3.0\text{mg}$ 、高Ⅰ群 $9.3 \pm 3.3\text{mg}$ であった。

【考察】

高Ⅲ群は3年間で体重、体脂肪、骨格筋量、骨量が徐々に増加し、摂取エネルギー、Pg/体重kgが増加していた。高Ⅱ群は初回と比較し骨格筋量が増加し、体脂肪は低下した。また、摂取エネルギー、Pg/体重kg、Caが増加していた。さらに両群ともに故障箇所の減少がみられた。たんぱく質やCaは選手にとって体づくり・故障予防に重要であり、体のケアのためにも摂取量を増加させることが大切であると考え。3群を比較すると、高Ⅲ、高Ⅱ方が体重、骨格筋量、エネルギー、Ca摂取量が多かった。また高Ⅱ群は3群の中でエネルギー、Pg/体重kg、Ca摂取量が多かった。この結果は栄養指導を繰り返し行い、食事の基本形や体作りのために必要な食事のあり方の知識を身に付けた結果だと考えられる。しかし、3群ともCaや鉄の摂取量は食事摂取基準2015の推奨量未満だった。今後は、故障予防のために必要な栄養素へのアプローチをさらにを行い、選手に正しい食知識や食習慣を身に付けてもらえるような栄養サポートをしたいと考える。

演 題 4 カスタムメイドマウスガード普及の取り組み（第1報）

～高校空手道部の場合～

氏 名 原 徳美¹⁾

所 属 ¹⁾ 独立行政法人国立病院機構西別府病院歯科 スポーツ医学センター

²⁾ 大分赤十字病院 歯科口腔外科 ³⁾ 社会医療法人 敬和会 大分岡病院

共同演者 大野 信子¹⁾、秋吉 ゆき子¹⁾、森島 貴史²⁾、保科 早苗¹⁾、松田 貴雄¹⁾、森 照明³⁾

【はじめに】

我々は、H20年4月スポーツ歯科開設より、カスタムメイドのマウスガード（以下 MG）の普及を一つの目標とし活動を続けてきた。今回、第1報としてスポーツ現場での MG 作製と提供の実際を報告する。

【方法】

対象は、大分南高校空手部1－2年生8名（男1名、女7名）で、スケジュールは、H26年は、10/8、22、11/19の放課後の3日間を組んだ。歯科医師1名、衛生士2名、技工士2名が、大分南高校道場に出向き、初日は、口腔診査・アンケート・印象採得、2日目に、MGの最終調整&セットと口腔管理についての講話を行った。装着の約1か月後に、当科¹⁾にてマウスガード使用状況のフォローと口腔衛生と MG 管理の指導と調整を行った。さらに H27/3/19の半年後にも同様のフォローを道場で行った。

【結果】

我々は、昨年 H26 年には選手とともに既成 MG の作製を行っている。

- ・事前アンケート（10/8実施）では、競技中の MG 使用者（全員既成）5名、未使用者3名で、顎の疲労感や呼吸等の不満感があった。
- ・事後アンケート1回目（11/19回収）では、多くの生徒において既成 MG であった不具合が解消され、MG 装着度が増加した。
- ・半年後の事後アンケート2回目（3/6回収）では、ほぼすべての選手が MG を練習と試合中の両方に使用していた。ただし1名（全国レベルの競技力の選手）に違和感の訴えがあり、調整を行った。

【考察】

カスタムメイドは既成 MG に比べて、提供する側とされる側ともに費用や労力が多く、負担が大きいが、その使用感は良好で、使用頻度も高くなる。ただし、カスタムメイド MG も、使用後のフォローは必要である。

今後も、一生の歯の健康につながる『歯科サポート（教育）』と合わせて、質の高い『カスタムメイド MG の普及システム』を構築していきたい。

演題 5 中学校部活動におけるメディカルチェック

氏名 甲下 修士^{1) 2)}

所属 ¹⁾ 西別府病院 リハビリテーション科、
²⁾ 西別府病院 スポーツ医学センター、³⁾ ハートリハ ソラ

共同演者 手光 文子¹⁾、大平 高正³⁾



【キーワード】

中学生 運動部活動 メディカルチェック

【はじめに】

中学校部活動において、医科学の知識や情報の欠如、誤った認識によるスポーツ外傷・障害が多く発生しており、その対処が求められている。しかし、学校教育における部活動は授業の一環と考えられ、運動部の顧問が対象となる種目の専門的な知識を有していないこともある。今回、中学バドミントン部のメディカルチェック（以下、MC）を行う機会を得たので報告する。

【対象と方法】

対象は、バドミントン部の女子中学1、2年生の23名。MCとして、全身弛緩性（以下、GJL）テスト、包括的な身体機能評価としてFMS、怪我の質問、関節可動域評価（以下、ROM）を行った。

【結果】

GJLテストは、4.0点以上が4人、3点以上4点未満が6人であった。FMSの合計点の平均は13.1点、総最高点16点、総最低点10点であった。ROMにおいて、各関節の参考可動域を下回る者はいなかった。怪我や身体の不調を訴える者は5人であった。

【考察】

業務が多岐にわたる学校現場では、顧問がスポーツによる怪我のリハビリや予防、適切なトレーニングまで十分にできていない現状が示唆される。MCにより障害を発見することは非常に重要であり、理学療法士は、障害予防に対する学生や顧問の意識を変化させる啓発活動を通じて、地域のなかで連携・協働することが求められる。

演 題 6 競技関係者のドーピング防止ホットライン利用状況の変化

氏 名 松尾 成真

所 属 公益社団法人 大分県薬剤師会

共同演者 山田 雅也、中島 美紀、河村 聡志、伊東 弘樹、安東 哲也

【目的】我々はドーピング防止ホットラインを開設し質問を受け付けており、前回の大分県スポーツ学会第6回学術大会において、ドーピング防止ホットラインの問い合わせ者のうち競技関係者について詳細に調査を行った。さらに調査を行ったので報告する。

【方法】問い合わせの集計期間は平成26年11月から平成27年10月とした。調査項目は、問い合わせ者の立場（選手、コーチ、トレーナーなど）、選手年齢層、性別、種目、質問時の服用歴（服用前、服用中、服用後）とした。

【結果】問い合わせは、平成26年が2件、平成27年が12件で、累計14件であった。質問者内訳は、コーチ（監督を含む）が2件、選手が6件、トレーナー2件、薬剤師1件、看護師1件、その他（ほとんどが保護者）が1件であった。対象選手の年齢は10代が1件、20代が10件、30代が2件であった。性別は男性13件であった。種目別では、6競技からの質問を受け付けていたが、フットサル6件、障害者陸上競技2件、バスケットボール1件、プロ野球1件、陸上競技1件であった。質問時の服用歴については、服用前9件、服用中5件であった。

【考察】今までドーピング防止ホットラインの質問者の多くは、国体におけるドーピング防止を目的としているので、10代の質問者が最も多かったが、今回の集計では特定の競技の選手からの質問が最も多くなっていた。これは、ドーピング検査が色々な競技に導入されることによって、ドーピング防止の意識が選手自身にも浸透してきたためと捉えている。これまでは国体を中心に各競技団体や選手にドーピング防止活動を行ってきたが、国体に限らず幅広くドーピング防止活動を行えるようにしていきたい。

演 題 7 大分県理学療法士協会が行っているトレーナー活動

氏 名 森山 秀一

所 属 大分県理学療法士協会 スポーツ事業部 部長

大分県理学療法士協会では、現在高校野球・高校サッカー・陸上協会・テニス協会などと連携しトレーナーサポートを行っている。陸上・テニス協会との関わりについては以前紹介させていただいたため、今回は高校野球・高校サッカーでのトレーナーサポートについてこれまでの関わりや課題、今後の展望などを中心に紹介する。

高校野球・高校サッカーのトレーナーサポートは理学療法士協会スポーツ事業部が中心となって運営している。

サポートまでの流れとしては、毎年高野連・サッカー協会からの依頼を受け各代表者とスポーツ事業部部長で連絡を行う。大会一ヶ月前までに理学療法士協会会員に対してトレーナーサポートの募集を行い、大会期間中に必要な人数を調整する。各日にサポート経験のあるスポーツ事業部員を配置しその日のチーフとして現場対応を行っている。また、経験の少ない会員も多いため、大会前に事前打ち合わせを兼ねて現場で必要な知識や技術、対応方法などの内容で研修会を行っている。

サポート当日は試合開始1時間半前までに集合し、トレーナールームをセッティングし、大会関係者や監督にあいさつに行き、トレーナーサポートの主旨を伝える。トレーナールームに選手が来室してからの対応としては、選手の訴えを聴取し機能評価を行う。選手の状態に合わせてストレッチ・アイシング・セルフケア指導、必要であればテーピング等を施行し行った内容をチーム関係者に文書にて報告している。また、サポート内容については後日サポートスタッフと情報を共有するためその日のうちに報告書を作成する。後日、スポーツ事業部で反省会を行い、次年度への課題やチーフ育成のための実技研修会を開催している。また年度末には各競技団体に向けてサポート報告書（サポート件数、サポート内容、障害部位等）を作成している。

現時点での課題としては、継続して参加しているスタッフが少ないということ、それにより次年度に繋がる取り組みが行えていないことが挙げられる。このような問題に対して、会員に向けてトレーナー活動の啓蒙を行っていき、多くの会員が継続して参加できるような体制作りを目指していきたいと考えている。

この二つの大会に関しては、高校最後の大会となる選手も多いため、選手たちが100%に近い状態で試合に臨み、悔いのないプレーをするための手助けとして重要な役割を担っていると感じている。そのため、選手に対して少しでも良いサポートができるため現状に満足せず会員全体でスキルアップを目指していきたい。

演 題 8 子どもたちのケガを防ぐには－メディカルマネージャー制度－
氏 名 牧 健一郎
所 属 (医) 大場整形外科、(一社) 大分県スポーツ学会
共同演者 高司 博美、佐保 翔子、大場 俊二

【はじめに】

(一社) 大分県スポーツ学会 (以下スポーツ学会) では2013年よりメディカルマネージャー (Mマネ) 講習・認定を行っている。また、2015年6月には (NPO) 日本メディカルマネージャー協会を設立し全国への展開を計っている。今回、スポーツによる障害を防止するためのシステム紹介と活動などを報告する。

【方法】

スポーツ学会会員、大分県体育協会加盟競技団体および地域総合型スポーツクラブ等を対象とし、Mマネの案内を送付し講習会を行った。

【結果】

2013年は、65名の参加があり、認定者26名、2014年は51名の参加で、認定者14名。2015年6月は21名が、11月には16名が講習会に参加している。

【考察】

Mマネ制度はチームにMマネを置くことにより、選手に健康管理の意識づけが出来、ケガの予防に繋げることが期待できる。しかし、スポーツ障害を防止する上で有効な手段ではあるが、実際に活動するMマネは多くない。Mマネの実際の活動にはそれをサポートするインストラクターの存在が不可欠であり、この制度が普及・発展していくためには、このインストラクター (医療関係者) の充実が当面の課題である。

演 題 9 腰椎疲労骨折 CT 矢状断分類における治癒率と復帰までの期間
氏 名 藤野 毅
所 属 (医) 大場整形外科
共同演者 大場 俊二 (MD)

(はじめに)

腰椎疲労骨折に対する早期診断・治療において、MRI は急性期所見の有無を、そして CT は進行程度を判断するため両者とも欠かせない検査となっている。当院では年間約100例を越える患者が急性期の腰椎疲労骨折と診断され治療を行っており、MRI ではスポーツ復帰の判断も行っている。今回、初回と3か月後に行ったCT検査の結果を矢状断分類にて調査し、その治癒率と復帰までの期間について検討したので報告する。

(対象)

2013、2014年度に急性期腰椎疲労骨折と診断され治療を行い、CT 検査を初回、約3か月後と2回撮影を行った79例（平均年齢13.6歳）である。

(方法)

初回でのCT所見を大場の矢状断分類（2014. 整スポ会誌）にて、初期・進行期に分類し、その変化を検討した。

(結果)

CT 分類初期（不全骨折）55例のうち、約3か月以内に48例がMRI 所見にて高輝度所見が消退しスポーツ復帰を許可した。3か月後のCT 検査では46例が進行期へ移行せず分離防止が可能であった。

(考察)

CT 分類はこれまで横断像（Axial）分類が用いられることが多かったが、初期例を矢状断分類にてより細かく評価することで、分離症への進展を防ぎ、かつ早期のスポーツ復帰を可能にすることができる。

演題 10 当院における取り組みの紹介～ウィメンズヘルス・ロコモについて～

氏 名 相馬 大樹^{1) 2)}

所 属 ¹⁾ 医療法人 大場整形外科、²⁾ 大分スポーツリハビリテーションセンター

共同演者 岡村 さやか^{1) 2)}、高司 博美^{1) 2)}、大場 俊二 (MD)¹⁾

【ウィメンズヘルス】

当院では、平成27年9月より成長期女性アスリートにおける健康管理と競技力向上を目的に女性アスリートコンディショニングサポートを開始した。背景として女性は、女性ホルモンによる身体的構造の変化、月経、妊娠・出産、骨粗鬆症など女性特有のライフイベントが多く存在する。特に、成長期の女性アスリートでは継続的な激しい運動トレーニングが誘因となり「low energy availability (利用可能なエネルギー不足)」「無月経」「骨粗鬆症」が発生し、パフォーマンスに大きく影響を及ぼす。そこで、生理不順・疲労骨折による復帰の遅延・易疲労感などの症状に悩む女性アスリートを対象とし、月経異常などを確認する婦人科的問診、採血、尿検査、成長速度曲線の記入、栄養サポートなどの内容を選手の希望に応じて選択できるよう3段階に分類しサポートを行っている。

【ロコモ】

当院では、「介護予防」に対する知識とその予防意識の啓発を目的に様々なプログラムを行っている。当院を受診した全ての中高年患者を対象とし、平成18年より、「OSR 健康教室」を月に2度開催。平成23年より、気軽に参加を目的に「わくわく体操」を平日に開催。平成24年より、質の高い治療を提供する為「骨粗鬆症治療」を開始している。それらの参加を希望しない患者に対しては、ロコモーショントレーニングを必須とし個別に運動機能維持・改善を図っている。各プログラムを通じて参加者の運動機能改善や、リピート率は徐々に増加し、健康に対する意識の向上が図られている。各プログラム体制を確立させることで、様々な視点から介護予防に対する包括的サポートが行えてきていると考える。今後も現状改善に加えさらなるサポート体制の確立を行い患者サービスの充実を図りたい。

演題 11 作業療法フェスタ2015 ～スポーツブースの活動報告～

氏 名 津田 憲吾

所 属 (公社)大分県作業療法協会 地域研修部

平成25年に(公社)大分県作業療法協会(以下、当協会)が会員に対して実施したアンケート調査により、作業療法士(以下、OT)は対象者に対してスポーツを提供し、同一のスポーツであっても対象者の状態にあわせて目的を変えて提供していることがわかった。そこで本年度は、当協会が啓発活動として実施する「作業療法フェスタ」においてスポーツブースを設け、作業療法とスポーツ・運動に関する啓発活動をおこなった。スポーツブースの内容は、スポーツやIADLを通して健康増進に意識を向けてもらうことを目的としたクイズと、OTがスポーツや運動を提供する際の視点をイラスト化したものを展示した。

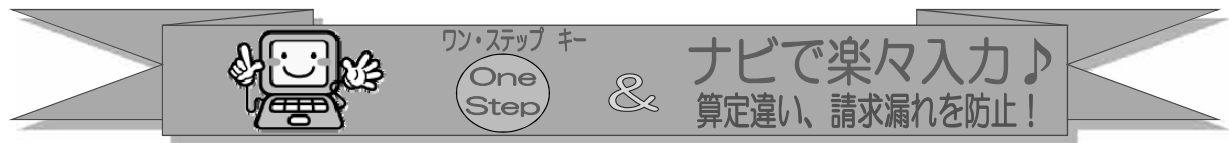
スポーツブースに興味を持つ見学者の年齢層は20代から60代と幅広かった。クイズに参加した見学者からは、「勉強になった。」や「スポーツはできないけど、家事動作ならできるから頑張ろう。」などの感想が聞かれた。展示物の説明を受けた見学者からは、「体のことのみではなく、心のことも考えてスポーツを用いていることに驚いた。」等の感想を聞くことができた。

「こころとからだのリハビリテーション」をおこなう職能団体として、住み慣れた地域で「その人らしい生活」を実現させるための支援の一つとしてスポーツを用い、すべての人の健康な生活の獲得に寄与していきたいと考える。

廣 告

プレシオ シリーズ
新製品!!

プレシオ スマート
Precio Smart 好評発売中!!



- ★ オンライン請求対応機種!
- ★ 同時に複数患者の入力が可能!
- ★ 見やすい画面で簡単入力!
- ★ 提供文書や資料作成も簡単!
- ★ 他社製品との連携が可能!
- ★ パソコン初心者でも安心なサポート!

大分支社は開設21年目です。
安心・迅速なサポートを
モットーに頑張っています!

大鶴歯科医師会例会
大分市歯科医師会協議会で
展示・デモ
実施中!

お問い合わせは
TELかメールで
竹之内、鬼塚 まで
お気軽にどうぞ



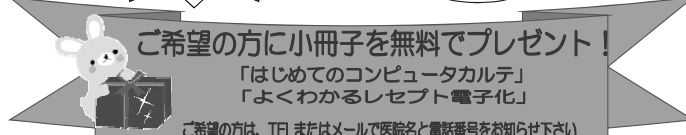
テレビ宮崎グループ

(株)システム開発 大分支社

〒870-0025 大分市 顕徳町 1丁目 14-1 河邊ビル 103

TEL 097-538-6163
FAX 097-538-6164

(本社) 〒880-0022 宮崎市大橋3丁目101-1
TEL 0985-22-1168 FAX 0985-23-0831



おかげさまで、大鶴・大分市の先生方を中心に大分県全域で
コンピュータカルテシステムをご利用いただいております。

足指筋力測定器 II

足指の牽引力(足指筋力)の測定とトレーニングを行うことができます。
被験者が足指かけを牽引すると、ケース部内のひずみゲージ式ロードセルがその力を検出し、
表示部にてkg単位で表示します。
トレーニングモードでは、自由に設定可能な目標値に対し、足指筋力を6段階のレベルバーで
表示します。



【仕様】

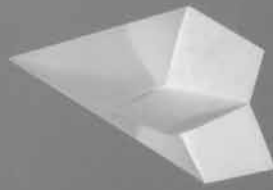
測定方法	アイソメトリック測定
測定範囲	0.5~80.0kg
測定回数	1回
力検出方式	ひずみゲージ式ロードセル
表示/分解能	3桁(ゼロサプレス) / 0.1kg
電源	単3乾電池2本
寸法	約200(W) × 480(L) × 110(H) mm
質量	約4.0kg



人間の可能性を科学する

竹井機器工業株式会社 <http://www.takei-si.co.jp>

●福岡支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-1-33(はかた近代ビル7F) TEL. 092 (411) 1430 FAX. 092 (475) 3899



願いをこめた新薬を、 世界のあなたに届けたい。

「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」

わたしたちは、新薬の開発に挑み続けます。

待ち望まれるくすりを、一日でも早くお届けするために。



小野薬品工業株式会社

自然と健康を科学する、漢方のツムラです。



芍薬(シャクヤク)

急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛、
筋肉・関節痛、腹痛に

68 ツムラ芍薬甘草湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

色白で筋肉軟らかく水ぶとりの体質で疲れやすく、汗が多く、
小便不利で下肢に浮腫をきたし、膝関節の腫痛するものの次の諸症
関節炎、筋炎、浮腫、肥満症に

20 ツムラ防己黄耆湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

打撲によるはれ及び痛み

89 ツムラ治打撲一方
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

■効能又は効果、用法及び用量、使用上の注意等は、製品添付文書をご覧ください。



株式会社ツムラ

<http://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。Tel.0120-329-970

(2015年10月制作) NXOS01-K (商)

KSSC
SPORTS COLLEGE

VICTORY

すべては
可能性のために。

スポーツ健康学科
**アスリート
コース**

スポーツ健康学科
**トレーナー
コース**

スポーツ健康学科
**スポーツビジネス
コース**

幼児スポーツ
学科

近畿大学九州短期大学
通信教育部併修

学校案内を無料で
お申し込みは
こちらまで

学校法人 吉用学園
専門 九州総合スポーツカレッジ

〒872-0021 大分県宇佐市大字金屋199-2
TEL.0978-38-4880 FAX.0978-38-4897

KSSC九州

検索

速乾性擦式手指消毒剤 薬価基準対象外

ウエルパス®
手指消毒液0.2%

速乾性擦式手指消毒剤 第3類医薬品

ウエルセプト®
ゲル状速乾性手指消毒剤 第3類医薬品

ウエルピュア®

※効能・効果・用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細につきましては、添付文書をご参照下さい。

製造販売元
丸石製薬株式会社
http://www.maruishi-pharm.co.jp/

【資料請求先・製品情報お問い合わせ先】
丸石製薬株式会社 学術情報グループ
〒538-0042 大阪府鶴見区今津中2-4-2
TEL. 0120-014-561

2010年7月作成

AIR SALONPAS

スポーツ時の
筋肉痛、筋肉疲労に

Hisamitsu®

AIR SALONPAS JET^α

ジェット噴射で、冷却力アップ 微香性で、においダウン

エアースロンパスジェット^α

筋肉痛・筋肉疲労に 第3類医薬品 ※当社エアースロンパスEX比

◎この商品に関するお問い合わせは、久光製薬お客様相談室へ。☎ 0120-133250
受付時間 / 9:00～12:00、13:00～17:50 (土・日・祝日を除く) www.airsalonpas.jp

TERIBONE

骨粗鬆症治療剤 薬価基準収載

テリボコ® 皮下注用56.5 μ g

注射用テリパラチド酢酸塩 処方せん医薬品®

Teribone Inj. 56.5 μ g ※注意—医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に
関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等につ
いては製品添付文書をご参照ください。本剤は自己注射はできません。

製造販売元 (資料請求先) **旭化成ファーマ株式会社**

医薬情報部 ぐすり相談窓口
〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
☎ 0120-114-936 (9:00～17:45/土日祝・休業日を除く)
URL: http://www.asahikasei-pharma.co.jp

AsahiKASEI

2013.10

「そう、そう！
これが欲しかった。」
そんな歯医者さんのお悩み、解決します。

fd 歯科材料・歯科器械ディーラー
フォルディ株式会社

大分営業所 〒870-0848 大分市賀来北1-17-7
TEL 097-549-0588 / FAX 097-549-2070

宮崎営業所 〒880-0035 宮崎県宮崎市下北方町下郷6066 時任ビル1F
TEL 0985-24-7034 / FAX 0985-27-0282

OD
ORIENTAL

株式会社 オリエンタル 歯科器材

本社	大分市今津留3丁目16-18	〒870-0938	TEL 097(558)7507	FAX(551)5731
福岡支店	福岡市博多区東光寺1丁目25-18	〒816-0096	TEL 092(436)7230	FAX(436)7231
北九州営業所	北九州市八幡西区丸尾町12-12 グリーンコート101号	〒807-0826	TEL 093(692)5899	FAX(647)5811
延岡営業所	延岡市緑ヶ丘3丁目6-9	〒882-0863	TEL 0982(35)0531	FAX(35)0705
熊本営業所	熊本市東区昭和町1-19	〒861-2108	TEL 096(360)7008	FAX(360)7018
長崎営業所	諫早市貝津町828-1	〒854-0063	TEL 0957(25)4362	FAX(25)4542
宮崎営業所	宮崎市恒久4丁目8-3	〒880-0913	TEL 0985(64)0975	FAX(64)0958



選択的SGLT2阻害剤 -2型糖尿病治療剤- 薬価基準収載

デベルザ[®]錠20mg

トホグリフロジン水和物錠 処方箋医薬品・注意—医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、
製品添付文書をご参照ください。



製造販売元
(資料請求先)

興和株式会社
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

販売元

興和創薬株式会社
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

伊藤内科医院 院長 伊藤 彰

大分市大石町 4-1-2 TEL 097-543-1100

<http://ito-naika.net/>



おれんじ薬局

スポーツファーマシスト常勤
ドーピングに関する問い合わせ
いつでもOK!!

開局時間

平日(水曜日を除く) ▶ 8:30~19:00
水曜日 ▶ 8:30~13:00
定休日 ▶ 日曜日・祝日

〒870-0839
大分市金池南2丁目3番8号
TEL 097-547-8802
FAX 097-547-8803



明日をもっとすこやかに

meiji

Meiji Seika ファルマ株式会社

作成：2012.05

関節機能改善剤

(精製ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液)

〔処方箋医薬品〕 注意—医師等の処方箋により使用すること

アルツ® ディスポ® 関節注25mg
アルツ® 関節注25mg

(製造販売元) 生化学工業株式会社
東京都千代田区丸の内1丁目6-1

経皮吸収型鎮痛消炎貼付剤

(フルルビプロフェン製剤)

アドフィード®
パップ40mg/80mg

(製造販売元) リードケミカル株式会社
富山県富山市日辰77-3



科研製薬株式会社

●各製品の効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細は、
製品添付文書をご参照ください。 ●各製品共、薬価基準収載

発売元〔資料請求先〕
科研製薬株式会社 医薬品情報サービス室
〒113-8650 東京都文京区本駒込2-28-8

(2015年2月作成) 2AA02GK



Sports Pharmacist
スポーツファーマシスト

ドーピング禁止薬についての質問は、 薬剤師会にお問い合わせ下さい！

日本アンチ・ドーピング機構の認定薬剤師
スポーツファーマシストがお答えします。

【問合わせ先】

大分県薬剤師会 薬事情報室

TEL：097-544-9512

FAX：097-544-8060

<http://oitakenyaku.or.jp>



公益社団法人大分県薬剤師会

一般社団法人 別府市薬剤師会

会 長
友 成 朗

別府市亀川内竈16組

TEL 0977-67-4315

<http://beppuyaku.jp/>

私たちは、
かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師を
目指しています。



青 山 薬 局	スワロー薬局照波園店	ファーマシー野口元町
あき調剤薬局 別府店	セスナ荘園薬局	ファーマシー船小路
あすなろ薬局	セスナ薬局 千代町店	ファーマシーさかいし
あゆみ調剤薬局扇山店	そうごう薬局 別府流川店	ふれあい調剤薬局
(株)アルファ薬局	そうごう薬局 別府秋葉店	ファン薬局 別府医療センター前
an調剤薬局やまなみ店	太 陽 調 剤 薬 局	(有) ふくだ 薬 局
石 垣 薬 局	太陽調剤薬局 鶴見店	藤 島 調 剤 薬 局
(株)木下薬局	たていし薬局本店	輔仁薬局新別府前店
(有)キムラ薬局	中 央 薬 局	み う ら 薬 局
(有)キムラ薬局亀川店	つるみ調剤薬局	みょうばん薬局
(有)くらうん薬局	東洋漢方中央薬局	薬剤師会調剤薬局
くろーばー薬局	トモ工薬局石垣店	やまなみ薬局
(有)古戦場薬局	永富調剤薬局別府秋葉通り店	やまもと薬局
(有)後藤薬局	な か の 薬 局	ゆう調剤薬局 別府店
後藤調剤薬局	な の 花 薬 局	ヨシムラ薬局鶴見病院前店
後藤薬局 亀川店	にっこり調剤薬局	よしむら薬局
こもればい薬局	日 伸 薬 局	ヨシムラ薬局中部店
さとう調剤薬局 亀川店	(有)のぞみ調剤薬局 別府店	(有)よろずや薬局
サンアイ調剤薬局つるみ店	(有)春木薬局	りんご薬局
上 人 薬 局	B-スポーツ薬局	(株)ロイヤルグリーン薬局
新 港 町 薬 局	ひだまり薬局	和 田 薬 局
スマイル薬局荘園店	(有)日の丸薬局	
スワロー薬局	ひびき調剤薬局	

杵築速見薬剤師会

会長 佐藤 英隆

あゆみ調剤薬局
梅田薬局
(有)川中薬局
小向薬局本店
小向調剤薬局
さざんか薬局
さとう調剤薬局 佐尾店
さとう薬局 日出店

さとう調剤薬局 杵築店
さとう調剤薬局
ジェイ・エイ薬局
(有)城山調剤薬局 北浜支店
城山調剤薬局 中央支店
たていし調剤薬局
つつみ薬局
くすりデザイン

(有)ナカシマ商会 ナカシマ薬局
永富調剤薬局 日出店
(有)永松薬局
永松薬局 大内店
のぞみ調剤薬局
日出調剤薬局
山香町立病院前薬局
(有)陽谷駅前薬局

豊後大野市薬剤師会

会長 矢野 ことみ

赤嶺薬局
あそう調剤薬局高砂店
あそう調剤薬局赤嶺店
あそう調剤薬局小児科まえ店
あそう調剤薬局市場三区店
いづみ調剤薬局
犬飼薬局
おおの調剤薬局 おがた店

緒方薬局
(株)岡本薬局
けやき薬局
さくら薬局
漢方薬局 サトウ
(有)首藤薬局 犬飼店
(有)友松薬局 野津店
ふるさと薬局

まえはら調剤薬局
三重調剤薬局内田店
三重調剤薬局小坂店
みつば薬局
みどり調剤薬局
(有)やの薬局
わかば薬局

佐伯市薬剤師会

佐伯調剤薬局

会長 脇田 佳幸

大分県佐伯市常盤西町10-15
TEL 0972-22-9789 FAX 0972-22-9745
e-mail cyouzai@wave.plala.or.jp

駅前調剤薬局
かまえ調剤薬局
上岡調剤薬局
くすりのワキダ
クレイン調剤薬局
佐伯センター調剤薬局
下川薬局 長島店
しもかわ調剤薬局
昭和薬局
しろやま調剤薬局

東洋漢方中央薬局
トキワ町調剤薬局
渡町台調剤薬局
東中の島調剤薬局
中の島調剤薬局
中村調剤薬局
南佐調剤薬局中央店
東町調剤薬局
ファン薬局長門記念病院前
府高薬局

蛇崎調剤薬局
ほじん薬局佐伯店
輔仁薬局 弥生店
みつばち薬局
宮明薬局
女島調剤薬局
焼山友愛堂
ゆう調剤薬局 佐伯店
ゆう調剤薬局 佐伯コスモ店
夢見堂薬局 西谷店



公益社団法人 大分市薬剤師会

会長 永富 茂

会員 一同

大分市金池南1丁目15番3号
TEL 097-546-4144(代) FAX 097-545-2691
e-mail ekinan@oitasiyaku.net

第7回大分県スポーツ学会学術大会の開催おめでとうございます。

中津薬剤師会は、
アンチドーピング活動を通して
県民の健全な生活・スポーツ振興に
寄与するべく
活動して行く所存です。

中津薬剤師会

会長 川口 純市

会員 一同

〒871-0153
大分県中津市大貞371-290 コーポ泰平2F

我々は、生涯スポーツを通した健康作りを応援しています

宇佐市薬剤師会

会 長 友 松 茂 喜

会 員 一 同

薬を通じて地域の皆様に密着した健康管理に貢献する薬局

安東調剤薬局グループ

本部 ☎542-5717

ホームページアドレス <http://www.andou-ph.co.jp>

賀来店 ☎549-2433
明野店 ☎556-9748
玉沢店 ☎541-6678

野田店 ☎549-5851
車木店 ☎549-0417
今津留店 ☎556-1767

コスメティックハウス

genki館 ☎542-3336



〒870-0192 大分市西鶴崎3丁目7-11

- 心血管センター
- 創傷ケアセンター
- 消化器センター
- 外来管理センター
- 救急外来センター
- サイバーナイフがん治療センター

代表電話
コールセンター

TEL 097-522-3131
TEL 097-503-5033

〒870-0261 大分市大字志村字谷ヶ迫 765 番地

- 回復期リハビリテーション病棟
- 健診センター

代表電話

TEL 097-503-5000

〒870-0131 大分市大字皆春1521番地の1

- 通所リハビリテーション
- 訪問リハビリテーション
- 短期入所療養介護
- グループホーム おおざい憩いの苑
- グループホーム こいけばる憩いの苑

- 居宅介護支援事業所
- ヘルパーステーション
- 訪問看護ステーション
- 短期入所生活介護
- ・大分東部病院内サテライト
- 短時間通所リハビリテーション
- ・下郡サテライト
- ・春日サテライト
- 小規模多機能型居宅介護支援事業所

陽だまりの郷 みなはる

代表電話

TEL 097-521-0110

〒870-0147 大分市大字小池原1021番地

代表電話 TEL 097-551-1767

〒870-0192 大分市西鶴崎3丁目7-11

代表電話 TEL 097-522-3187



主催
一般社団法人
大分県スポーツ学会

第7回学術大会大会長
山田 雅也

事務局

大分スポーツリハビリテーションセンター

〒870-0165 大分県大分市明野北1-1-11
TEL : 097-574-5132 FAX : 097-574-5133

社会医療法人 敬和会 大分岡病院

〒870-0192 大分県大分市西鶴崎3-7-11
TEL : 097-522-3131 FAX : 097-522-3777

